



Informatica® Master Data Management
Multidomain Edition

10.2

リリースノート

Informatica Master Data Management Multidomain Edition リリースノート

10.2

2016 年 10 月

© 著作権 Informatica LLC 1998, 2019

発行日: 2019-05-27

目次

第 1 章 : 概要	5
バージョン 10.2.	5
Informatica LLC.	5
第 2 章 : インストールおよびアップグレード	6
サポートの終了.	7
Apple Single Sign-On はサポートされない.	7
Solaris 環境および HP-UX 環境での Informatica プラットフォームのサポート.	7
アップグレード前のサブジェクト領域名の更新.	7
IBM DB2 環境でのデフォルト以外のポートの指定.	8
英語以外の環境での Hub サーバーのインストール.	8
WebLogic サーバー 12.1.3 への Hub サーバーのインストール.	9
コンソールモードでの Oracle 環境への Hub サーバーのインストール.	9
前提条件の検証をしない Hub サーバーインストール.	9
UNIX システムにおけるコンソールモードでの Hub サーバーのインストール.	10
コンソールモードでの Hub サーバーと埋め込み ActiveVOS の同時インストール.	10
HP-UX での Hub サーバーのインストール.	10
WebSphere クラスタ環境での ActiveVOS のインストール.	11
IBM DB2 環境での埋め込み ActiveVOS のアップグレード.	11
JBoss 環境での Hub サーバーのインストール.	12
Linux 環境での WebSphere バージョン 8.5.5.9 へのプロセスサーバーのインストール.	12
IBM AIX オペレーティングシステムにおける JBoss 環境での MDM Multidomain Edition のイン ストール.	12
IBM AIX 環境でのバージョン 10.1 HotFix 2 からの Hub サーバーのアップグレード.	13
Oracle 環境でのバージョン 9.5.1 からのアップグレード.	13
Oracle および JBoss 環境でのバージョン 9.7.1 からの Hub サーバーのアップグレード.	13
エンティティ 360 表示のアップグレードインストール.	13
Java 8 を実行している WebSphere IBM DB2 環境でのアップグレード.	14
WebLogic クラスタでの Hub サーバーのインストール後のタスク.	14
Hub サーバーのインストールまたはアップグレード後の作業.	14
JBoss クラスタでのオペレーショナル参照ストアの登録.	14
変更リスト昇格.	15
プロセスサーバーのスマート検索用プロパティ.	15
IBM DB2 での一致ポピュレーションの有効化.	15
英語以外の Oracle および JBoss 環境での PostInstallSetup スクリプトの実行.	16
プロセスサーバーのインストールおよびアップグレード.	16
サイレントモードでのリソースキットのインストール.	16
オペレーショナル参照ストアのアップグレード.	16

第 3 章 : MDM Multidomain Edition バージョン 10.2..... 17

解消された制限事項.....	17
MDM Hub で解消された制限事項.....	17
Informatica Data Director で解消された制限事項.....	23
プロビジョニングツールで解消された制限事項.....	29
エンティティ 360 フレームワークに基づいた IDD ビュー - 解消された制限事項.....	29
スマート検索で解消された制限事項.....	30
ActiveVOS で解消された制限事項.....	30
ビジネスエンティティサービスで解消された制限事項.....	31
階層マネージャの解消された問題.....	32
ユーザーイグジットで解消された制限事項.....	32
サービス統合フレームワークで解消された制限事項.....	32
実装された拡張要求.....	33
MDM Hub に実装された拡張要求.....	33
Informatica Data Director に実装された拡張要求.....	33
ビジネスエンティティサービスに実装された拡張要求.....	34
既知の制限事項.....	34
MDM Hub の既知の制限事項.....	34
Informatica Data Director の既知の制限事項.....	37
スマート検索の既知の制限事項.....	42
Informatica プラットフォームの既知の制限事項.....	44
ビジネスプロセス管理の既知の制限事項.....	45
Informatica Dynamic Data Masking の既知の制限事項.....	46
プロビジョニングツールの既知の制限事項.....	47
ビジネスエンティティの既知の制限事項.....	48
ビジネスエンティティサービスの既知の制限事項.....	48
Informatica Data Controls の既知の制限事項.....	49
Resource Kit の既知の制限事項.....	49
サンプルのオペレーショナル参照ストアの既知の制限事項.....	49
サービス統合フレームワークの既知の制限事項.....	50

第 4 章 : Informatica グローバルカスタマサポート..... 51

第 1 章

概要

Informatica MDM Multidomain Edition のリリースノートには、リリースの既知の制限に関する重要な情報が記載されています。Informatica^(R) MDM Hub と Informatica Data Director をインストールする前に、このドキュメントをよくお読みください。

バージョン 10.2

Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 は、バージョン 10.x コード行の最新リリースです。このリリースには次の項目が含まれます。

重要: 今後のすべての HotFix または緊急バグフィックスリリースで、バージョン 10.2 以降がインストールされていることが要求されます。

Informatica LLC

2015 年 8 月から、すべての Informatica 製品およびマニュアルの「Informatica Corporation」という用語が「Informatica LLC」に置き換わりました。現在の製品またはマニュアルの「Informatica Corporation」という用語は、「Informatica LLC」と読み替える必要があります。

MDM-8740

第 2 章

インストールおよびアップグレード

この章では、以下の項目について説明します。

- [サポートの終了, 7 ページ](#)
- [Apple Single Sign-On はサポートされない, 7 ページ](#)
- [Solaris 環境および HP-UX 環境での Informatica プラットフォームのサポート, 7 ページ](#)
- [アップグレード前のサブジェクト領域名の更新, 7 ページ](#)
- [IBM DB2 環境でのデフォルト以外のポートの指定, 8 ページ](#)
- [英語以外の環境での Hub サーバーのインストール, 8 ページ](#)
- [WebLogic サーバー 12.1.3 への Hub サーバーのインストール, 9 ページ](#)
- [コンソールモードでの Oracle 環境への Hub サーバーのインストール, 9 ページ](#)
- [前提条件の検証をしない Hub サーバーインストール, 9 ページ](#)
- [UNIX システムにおけるコンソールモードでの Hub サーバーのインストール, 10 ページ](#)
- [コンソールモードでの Hub サーバーと埋め込み ActiveVOS の同時インストール, 10 ページ](#)
- [HP-UX での Hub サーバーのインストール, 10 ページ](#)
- [WebSphere クラスタ環境での ActiveVOS のインストール, 11 ページ](#)
- [IBM DB2 環境での埋め込み ActiveVOS のアップグレード, 11 ページ](#)
- [JBoss 環境での Hub サーバーのインストール, 12 ページ](#)
- [Linux 環境での WebSphere バージョン 8.5.5.9 へのプロセスサーバーのインストール, 12 ページ](#)
- [IBM AIX オペレーティングシステムにおける JBoss 環境での MDM Multidomain Edition のインストール, 12 ページ](#)
- [IBM AIX 環境でのバージョン 10.1 HotFix 2 からの Hub サーバーのアップグレード, 13 ページ](#)
- [Oracle 環境でのバージョン 9.5.1 からのアップグレード, 13 ページ](#)
- [Oracle および JBoss 環境でのバージョン 9.7.1 からの Hub サーバーのアップグレード, 13 ページ](#)
- [エンティティ 360 表示のアップグレードインストール, 13 ページ](#)
- [Java 8 を実行している WebSphere IBM DB2 環境でのアップグレード, 14 ページ](#)
- [WebLogic クラスタでの Hub サーバーのインストール後のタスク, 14 ページ](#)
- [Hub サーバーのインストールまたはアップグレード後の作業, 14 ページ](#)
- [JBoss クラスタでのオペレーショナル参照ストアの登録, 14 ページ](#)
- [変更リスト昇格, 15 ページ](#)
- [プロセスサーバーのスマート検索用プロパティ, 15 ページ](#)

- [IBM DB2 での一致ポリューションの有効化, 15 ページ](#)
- [英語以外の Oracle および JBoss 環境での PostInstallSetup スクリプトの実行, 16 ページ](#)
- [プロセスサーバーのインストールおよびアップグレード, 16 ページ](#)
- [サイレントモードでのリソースキットのインストール, 16 ページ](#)
- [オペレーショナル参照ストアのアップグレード, 16 ページ](#)

サポートの終了

バージョン 10.0 以降では、次の機能のサポートは終了しました。

EJB2 プロトコル

EJB2 プロトコルが廃止されたため、EJB3 プロトコルを使用してサービス統合フレームワーク（SIF）要求を通じて MDM Hub と通信する必要があります。

IBM ILOG グラフ

新規顧客またはすでに IBM ILOG グラフソフトウェアのライセンスを保有している既存の顧客に対して、ILOG グラフはサポートされません。代わりに、Jaspersoft レポートを使用できます。

Apple Single Sign-On はサポートされない

このバージョンの Informatica MDM Multidomain Edition では、Informatica Data Director と Apple SSO は連動しません。（MDM-6906）

Solaris 環境および HP-UX 環境での Informatica プラットフォームのサポート

MDM Multidomain Edition と Informatica プラットフォームの組み合わせを Solaris 環境および HP-UX 環境で使用することはできません。（MDM-14971）

アップグレード前のサブジェクト領域名の更新

サブジェクト領域名の先頭が数字でないことを確認します。サブジェクト領域名の先頭が数字の場合は、名前を変更して先頭を英字にします。サブジェクト領域名の先頭が数字の場合は、MDM Hub によって生成されるビジネスエンティティ設定によりリポジトリマネージャ検証エラーが発生します。ビジネスエンティティ設定を使用しない場合は、先頭が数字であるサブジェクト領域名を引き続き使用できます。（HORA-51906）

IBM DB2 環境でのデフォルト以外のポートの指定

sip_ant.bat コマンドを実行してデフォルトポート以外のポートを指定すると、コマンドは失敗します。通信エラーが sip_ant ログに表示されます。

回避策: database.properties ファイルでポート番号を編集し、次のディレクトリでスクリプトを実行します。

```
<distribution directory>/database/bin/db2
```

(MDM-13586)

(MDM-14116)

英語以外の環境での Hub サーバーのインストール

英語以外の言語で MDM Hub をインストールすると、Hub サーバーのインストーラの起動に失敗します。

回避策: インストーラを起動するには、コマンドプロンプトを開き、Hub サーバーのインストールディレクトリに移動して、次のコマンドを入力します。

```
hub_install.exe -l <language code>
```

ここで、<language code>は優先言語です。言語コードは、言語が以下のいずれかである場合に使用します。

言語	言語コード
ポルトガル語	pt_BR
フランス語	fr
ドイツ語	de
日本語	ja
韓国語	ko
ロシア語	ru
簡体字中国語	zh_CN
スペイン語	es

(MDM-14224)

WebLogic サーバー 12.1.3 への Hub サーバーのインストール

WebLogic Server 12.1.3 をインストールする場合は、必ず JDK 8 update 20 を使用してください。

Hub サーバーを WebLogic サーバー 12.1.3 にインストールする場合、次のいずれかのインストールオプションを検討してください。

- WebLogic サーバー 12.1.3 がインストールされているディスクドライブに Hub サーバーをインストールする。
- Hub サーバーと WebLogic サーバー 12.1.3 を別々のディスクドライブにインストールするが、Hub サーバーインストールディスクドライブに、WebLogic サーバー 12.1.3 インストールディスクドライブへの参照を含むシンボリックリンクを作成する。

Hub サーバーを WebLogic サーバー 12.1.3 とは異なるディスクドライブにインストールする場合、postInstallSetup および patchInstallSetup スクリプトは失敗します。

(MDM-8032)

(MDM-12784)

コンソールモードでの Oracle 環境への Hub サーバーのインストール

コンソールモードで Oracle 環境に Hub サーバーをインストールするための、インストール前のサマリに詳細が記載されていません。Informatica プラットフォームをインストールしないことを選択すると、サマリの「Informatica プラットフォームのインストールの見出し」に、[No] でなく空白が表示されます。

(HORA-51944)

前提条件の検証をしない Hub サーバーインストール

前提条件の検証なしで Hub サーバーのインストーラを実行する場合、データベースパスワードのプロンプトにダミーの値が必要です。

1. 前提条件の検証なしで Hub サーバーのインストーラを起動するには、以下のコマンドを実行します。

```
hub_install.bin -DSIPERIAN_INSTALL_PREREQ_VALIDATION=false
```

2. データベースパスワードが要求されたら、ダミーの値を入力します。

インストールが続行されます。ダミーの値を指定しないと、インストールが失敗します。(MDM-10975)

UNIX システムにおけるコンソールモードでの Hub サーバーのインストール

UNIX では、Hub サーバーをコンソールモードでインストールできます。

Hub サーバーインストールプロセスの一環として Informatica プラットフォームのインストールを選択する場合は、Informatica プラットフォームのインストールファイルの場所を尋ねるプロンプトが表示されません。Informatica プラットフォームをインストールする場合は、Hub サーバーのインストールをグラフィカルモードか、またはサイレントモードで実行してください。(HORA-50891)

コンソールモードでの Hub サーバーと埋め込み ActiveVOS の同時インストール

コンソールモードで Hub サーバーをインストールしている間に ActiveVOS^(R)をインストールする場合、サービス接続タイプを選択するときに次の不正なプロンプトが表示されます。

システムスキーマ（デフォルト: avos）：

システムスキーマパスワードを入力

このインストールでは、続行にパスワードが必要です。システムスキーマパスワードを入力してください：

次に、正しいプロンプトを示します。

ActiveVOS スキーマ（デフォルト: avos）：

ActiveVOS スキーマパスワードを入力

このインストールでは、続行にパスワードが必要です。ActiveVOS スキーマパスワードを入力してください：

(MDM-8723)

HP-UX での Hub サーバーのインストール

HP-UX 環境で Hub サーバーをインストールすると、postInstallSetup スクリプトが失敗します。

回避策: インストールが失敗した後で、postinstallsetup スクリプトを手動で実行します。または、インストールプロセス中に postinstallsetup スクリプトを実行するよう要求されたときに、postInstallSetup スクリプトを後で実行することを選択します。後で、postinstallsetup スクリプトを手動で実行します。(MDM-11092)

WebSphere クラスタ環境での ActiveVOS のインストール

WebSphere クラスタ環境で埋め込み ActiveVOS をインストールすると、ActiveVOS コンソールの MDM ID サービスプロバイダに接続できなくなります。

回避策: Hub サーバー、埋め込み ActiveVOS、プロセスサーバーのインストール後に、以下の手順を実行します。

1. ActiveVOS の install.properties ファイルで、install.web.application を false に設定します。
2. ActiveVOS インストールディレクトリの deployer.xml ファイルで、次のコードをコメントアウトします。

```
<!-- <target name="deploy.resources" depends="deploy.timer.manager,deploy.work.manager"/>
<target name="deploy.timer.manager">
<echo message="$
{basedir}"/>

<run.wsadmin script="${basedir}
/scripts/timermanager.jacl"/>
</target>
<target name="deploy.work.manager">
<run.wsadmin script="$
{basedir}/scripts/workmanager.jacl"/>

<run.wsadmin script="${basedir}
/scripts/systemworkmanager.jacl"/>
</target>
<target name="deploy.jaas">
<run.wsadmin script="$
{basedir}/scripts/jaaslogin.jacl"/>

</target>

<target name="deploy.apps">

<run.wsadmin script="${basedir}
/scripts/installapp.jacl"/>
</target> -->
```

3. <MDM installation directory>/hub/server/bin ディレクトリで、次のコマンドを実行します。
sip_ant.bat deploy_mdm_identity_resolution
sip_ant.bat deploy_avos_server
4. ActiveVOS EAR ファイルをデプロイします。EAR ファイルのデプロイの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition インストールガイド*』を参照してください。

(MDM-13269)

IBM DB2 環境での埋め込み ActiveVOS のアップグレード

IBM DB2 環境では、アップグレード前に、ActiveVOS データベース接続プロパティを<MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ>/hub/server/bin の build.properties ファイルに追加します。

次のサンプルは、サンプルエントリが含まれる ActiveVOS データベース接続プロパティを示しています。

```
activevos.db.type=db2
activevos.db.server=localhost
activevos.db.port=50000
```

```
activevos.db.user=AVOS
activevos.db.dbname=INFA102
activevos.db.schemaname=AVOS
activevos.db.jdbc.url=jdbc:db2://localhost:50000/INFA102
activevos.b4p.url=http://localhost:9080/active-bpel/services/AeB4PTaskClient-taskOperations

(MDM-13104)
```

JBoss 環境での Hub サーバーのインストール

JBoss 環境で Hub サーバー EAR ファイルをデプロイすると、同時拒否の実行例外が発生してデプロイメントが失敗する場合があります。

回避策: standalone-full.xml ファイルで JMS キューの長さを長くします。次のコードは、キューの長さのパラメータを示しています。

```
<queue-length count="50"/>

(MDM-13340)
```

Linux 環境での WebSphere バージョン 8.5.5.9 へのプロセスサーバーのインストール

プロセスサーバー EAR ファイルをデプロイすると、次のエラーが発生する場合があります。

Too many open files. Unable to start cleanse ear.

回避策: Linux で ulimit パラメータの値を大きくします。

(MDM-13618)

IBM AIX オペレーティングシステムにおける JBoss 環境での MDM Multidomain Edition のインストール

IBM AIX オペレーティングシステムにおける JBoss 環境での MDM Multidomain Edition には既知の問題があります。環境でこの組み合わせを使用する場合、MDM Multidomain Edition をインストールする前に Informatica グローバルカスタマサポートに問い合わせてください。

(MDM-8661)

IBM AIX 環境でのバージョン 10.1 HotFix 2 からの Hub サーバーのアップグレード

IBM AIX 環境で Hub サーバーをバージョン 10.1 HotFix 2 からアップグレードすると、entity360view.ear ファイルのデプロイに失敗する。

回避策: patchInstallSetup.sh スクリプトを手動で実行します。スクリプトの実行の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Upgrade Guide*』を参照してください。

(MDM-14777)

Oracle 環境でのバージョン 9.5.1 からのアップグレード

Oracle 環境で Hub サーバーをバージョン 9.5.1 からアップグレードする場合、アップグレードは正常に完了しますが、ログに次のエラーが記録されます。

```
19:26:22,012 INFO ImporterRole:44 - ddl: CREATE ROLE PROXY_ROLE ORA-01031: 特権が不足しています
```

このエラーは無視しても問題ありません。(HORA-51980)

Oracle および JBoss 環境でのバージョン 9.7.1 からの Hub サーバーのアップグレード

バージョン 9.7.1 からアップグレードする場合、ActiveVOS のデータソースの作成中にアップグレードに失敗します。

回避策: <JBoss installation directory>/standalone/configuration/standalone-full.xml ファイルを開き、ActiveVOS データソースおよび JDBC ドライバを指定するコード行をコメントアウトします。(MDM-8616)

エンティティ 360 表示のアップグレードインストール

Hub サーバーをアップグレードする際、タイムアウトエラーのために entity360view.ear がインストールできないことがあります。

回避策: インストールコンポーネント、patchInstallSetup または postInstallSetup を再実行します。

または、<MDM Hub installation directory>/hub/server/bin フォルダから次のコマンドを実行します。

```
./sip_ant.sh -Dentity360view.ear.dodeploy=true deploy.entity360view-ear
```

(HORA-52008)

Java 8 を実行している WebSphere IBM DB2 環境でのアップグレード

Java 8 を実行している WebSphere IBM DB2 環境で MDM Hub をアップグレードした後に、Hub コンソールが起動しない。

回避策: クライアントマシンで Java 7 を使用します。

(MDM-12036)

WebLogic クラスタでの Hub サーバーのインストール後のタスク

管理対象サーバーのみへのデプロイメントで Hub サーバーを WebLogic クラスタ環境にインストールする場合、インストール後にデータソースを手動で作成します。(MDM-10636)

Hub サーバーのインストールまたはアップグレード後の作業

WebSphere または JBoss を使用する場合は、Hub サーバーのインストールまたはアップグレード後に、アプリケーションサーバーの Temp ディレクトリから一時ファイルを削除し、アプリケーションサーバーを再起動する必要があります。(HORA-51708)

JBoss クラスタでのオペレーショナル参照ストアの登録

JBoss クラスタ環境でオペレーショナル参照ストアを登録できるようにするには、standalone-full.xml ファイルで<datasources>定義を設定します。

1. 次のディレクトリにある standalone-full.xml ファイルを開きます。
<JBoss Installation Directory>/standalone/configuration
2. <datasources>定義を設定して変更内容を保存します。

(MDM-10952)

変更リスト昇格

変更リストを空のオペレーショナルリファレンスストアに昇格させるには、MDM Hub によって外部マッチ入力テーブルに追加されるマッチカラムの長さが 4000 以下である必要があります。マッチカラムの長さは、マッチカラムのソースであるすべてのベースオブジェクトのカラムの長さでソースカラム数の合計です。

マッチカラムの合計長が 4000 を超える場合、変更リスト昇格は失敗し、以下のエラーが表示されます。

```
ORA-00910: specified length too long for its datatype  
(HORA-52116)
```

プロセスサーバーのスマート検索用プロパティ

MDM Hub をアップグレードしても、デフォルトでは <MDM Hub installation directory>\hub\cleanse\resources\cmxcleanse.properties ファイルにプロセスサーバーの次のスマート検索用プロパティが含まれません。

cmx.ss.enabled

スマート検索を有効にするかどうかを示します。スマート検索を有効化する場合 true に、スマート検索を無効化する場合 false に設定します。

zookeeper.tickTime

1 つのティックのミリ秒単位での長さ。ZooKeeper はティックを基本時間単位として使用して、タイムアウトを調整します。デフォルトは 2,000 ms です。

search.provisioning.maxshards

オプション。検索データのインデックス処理時に、単一の Apache Solr インスタンスで作成できるデータのコピーの最大数を示します。デフォルトは 1 です。

この問題を回避するには、cmxcleanse.properties ファイルに手動でプロパティを追加します。

スマート検索の設定に関する詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 設定ガイド*』を参照してください。(HORA-51676)

IBM DB2 での一致ポピュレーションの有効化

IBM DB2 環境にプロセスサーバーをインストール後、マッチルールで使用する一致ポピュレーションを有効化する必要があります。一致ポピュレーションを有効化する手順については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。(HORA-52288)

英語以外の Oracle および JBoss 環境での PostInstallSetup スクリプトの実行

英語以外のロケールで Oracle および JBoss の環境にインストールすると、インストールプロセス中は postInstallSetup スクリプトが実行されない。

回避策: インストール後に postInstallSetup スクリプトを実行して、EAR ファイルをデプロイします。詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition インストールガイド*』を参照してください。
(MDM-8731)

プロセスサーバーのインストールおよびアップグレード

Linux 環境の WebSphere に MDM Multidomain Edition for IBM DB2 のインストールまたはアップグレードを行うと、postInstallSetup スクリプトが javax.management.MBeanException エラーで失敗することがある。

postInstallSetup スクリプトが失敗した場合、次のタスクを実行します。

- ▶ WebSphere を停止して起動する。
プロセスサーバーが起動します。

(MDM-10850)

サイレントモードでのリソースキットのインストール

リソースキットのサイレントインストールが Linux 環境で失敗する。

回避策: グラフィカルモードまたはコンソールモードでリソースキットをインストールします。(MDM-10803)

オペレーショナル参照ストアのアップグレード

オペレーショナル参照ストアをアップグレードすると、アップグレードは成功するが、次のエラーが sip_ant ログに表示されます。

```
[exec] CREATE SEQUENCE "C_REPOS_ZDT_EVENT_SEQ" MINVALUE 1 MAXVALUE 9999999999999999  
[exec] INCREMENT BY 1 START WITH 1 CACHE 20 NOORDER CYCLE  
[exec] *  
[exec] ERROR at line 1:  
[exec] ORA-00955: name is already used by an existing object  
[exec]
```

回避策: このエラーは無視しても問題ありません。

(MDM-14070)

第 3 章

MDM Multidomain Edition バージョン 10.2

この章では、以下の項目について説明します。

- [解消された制限事項, 17 ページ](#)
- [実装された拡張要求, 33 ページ](#)
- [既知の制限事項, 34 ページ](#)

解消された制限事項

MDM Hub で解消された制限事項

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-13844	ステージングテーブルが削除されて再作成されると、ベストバージョンオブトゥールズ (BVT) の計算でステージングテーブルカラムの [NULL の更新を許可する] プロパティ設定が考慮されない。ステージングテーブルが再作成されると、BVT の計算中に元のステージングテーブルによってロードされる相互参照レコードが影響を受けます。
MDM-13840	オペレーショナル参照ストアをバージョン 9.1.0 から 10.1 にアップグレードすると、次のサンプルのようなエラーが発生する。 行 1 でエラー:ORA-20005: 移行に失敗しました: 自動マージジョブの呼び出し。ORA-04063: パッケージボディ "SIP_SAMPLE.CMXLOCK" にエラー ORA-06508 があります: PL/SQL: 呼び出されるプログラムユニットが見つかりませんでした: "SIP_SAMPLE.CMXLOCK" ORA-06512: 行 110
MDM-13803	ステージングテーブルでセルを更新するオプションが有効になっている場合に外部キーを NULL 値で更新すると、ロードジョブが失敗する。拒否テーブルには拒否されたレコードが入力されず、エラーメッセージが表示されない。
MDM-13707	Microsoft SQL Server と IBM WebSphere の環境で、個別マッピングを有効にすると次のエラーが発生してロードジョブが失敗する。 DataAccessException: SIP-10322: Unable to execute the SQLInvalid column name ROWNUM

参照番号	説明
MDM-13406	Microsoft SQL Server 環境で、レコードに空のカラムの値が含まれているとロードジョブが失敗する。
MDM-13348	バッチサイズの大きい一致ジョブを実行するのに時間がかかる。
MDM-13222	Microsoft SQL Server 環境で、デフォルトである 1433 以外のデータベースポート番号を使用している場合、オペレーショナル参照ストア（ORS）のアップグレードに失敗する。
MDM-13171	レコードをマージ解除すると、C_REPOS_MQ_DATA_CHANGE テーブルのマージの更新イベントトリガエントリで SRC_ROWID_SYSTEM カラムと TGT_ROWID_SYSTEM カラムに不正なソースシステムが含まれる。
MDM-13142	韓国語のポピュレーションを使用していて韓国語データの一致ジョブを実行すると、プロセスサーバーでエラーが発生する。
MDM-13055	マージジョブを実行すると、MDM Hub で統合されるレコードの不正なベストバージョンオブジェクト（BVT）が生成される。
MDM-13011	相互参照レコードを論理削除すると、他の相互参照レコードがアクティブであってもベースオブジェクトが論理削除される。
MDM-12988	Hub ストアに IBM DB2 を使用している場合、メッセージが JMS キューに送信されない。
MDM-12944	複合サービス要求で、ベースオブジェクトの作成日カラムに、複合サービス要求で渡される作成日ではなく現在の日付が入力される。
MDM-12723	PromotePendingXrefs API で正しい相互参照レコードが昇格されないことがあり、これによってベースオブジェクトが不正なデータで更新される。
MDM-12555	自動マージジョブを使用して consolidation_ind=9 のすべてのベースオブジェクトレコードの一致レコードを削除すると、パフォーマンスが予想せずに低下する。この問題は、データベースに 100 万個の影響を受けるベースオブジェクトレコードがあり、一致テーブルに 200 万個を超えるレコードが含まれている場合に発生します。
MDM-12517	ロードジョブを実行すると、MDM Hub でタイムラインが有効なベースオブジェクトのレコードが拒否され、次のエラーが発生する。 SIP-40614: PERIOD_REFERENCE_TIME の値が指定されていないため、タイムラインアクションを実行できません。PERIOD_REFERENCE_TIME の時刻を指定してください。
MDM-12113	階層に双方向のリレーションがある場合、ロードジョブが失敗して次のエラーメッセージが表示される。 SIP-40204: エラー: データを階層マネージャのリレーションベースオブジェクトにロードできません。ロード要求で指定した階層、リレーションタイプ、およびエンティティタイプがオペレーショナル参照ストアの階層設定に存在することを確認してください。
MDM-12109	ベースオブジェクトで「連続しない有効期間を許可する」オプションを無効にして有効期間が異なる相互参照をレコードに追加すると、MDM Hub で次のエラーメッセージが生成される。 SIP-40600: アクティブな期間が日をまたぐことはできません。
MDM-11973	1000 個を超える相互参照レコードがある子レコードでバッチマージ解除ジョブを実行した場合、MDM Hub で例外が発生する。
MDM-11971	配置 API 呼び出しを行って子レコードを更新した場合、親ベースオブジェクトの外部キーが誤った相互参照レコードを参照する場合がある。

参照番号	説明
MDM-11963	親レコードの有効期間がサブジェクト領域の子の有効期間よりも前である場合、タスク作成に失敗し、エラーメッセージが表示されない。
MDM-11903	階層マネージャでエンティティを更新すると、次のエラーが発生する。 SIP-10321: rowid x を持つリレーションタイプが要求で見つかりません。
MDM-11688	Microsoft SQL Server 環境で、ソースシステムで物理削除されたレコードが MDM Hub で誤って検出される。
MDM-11594	一致カラムで一致サブタイププロパティを有効にすると、関連しないレコードがマッチングされる場合がある。
MDM-11538	Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.5.1 HF1 からアップグレードした後で、Oracle VPD のサポートがなくなる。
MDM-11145	クレンジング拒否関数がステージレコードを拒否すると、拒否テーブルには拒否されたレコードの SRC_ROWID 値が含まれない。
MDM-11139 MDM-10663	関連付けられたベースオブジェクトのサブジェクト領域で作成特権を割り当てなくても、Informatica Data Director で新しいドロップダウンメニューを表示できる。
MDM-11058	カラムの長さを超えるために拒否された Unicode データをステージジョブでロードすると、拒否テーブルに拒否されたレコードが入力されない。
MDM-11036	メッセージトリガを設定するときにパッケージを選択しない場合、メッセージキューで次のエラーメッセージが表示される。 レコードがパッケージで見つかりませんでした
MDM-11007	異なるソースからの相互参照を持つレコードを削除すると、相互参照レコードの一部のフィールドが変更される場合がある。
MDM-10981	マッピングで「重複行の削除を有効にする」オプションを使用してステージジョブを実行すると、一部のレコードがステージングテーブルに挿入されない場合がある。
MDM-10951	一致ジョブとマージジョブを実行すると、遷移一致プロセスで誤った rowid_match_rule が使用される。 解消するには、「一致しないすべての行を一意とする」プロパティを有効にする必要があります。このプロパティは、ベースオブジェクトの一致マージプロパティにあります。
MDM-10945	リアルタイム更新を使用して一致ジョブを並行で実行すると、一致ジョブが失敗する。
MDM-10944	ステージテーブルでセルの更新が有効化され、ステージテーブルにベースオブジェクトのルックアップがある場合、別のベースオブジェクトに対してロードジョブを実行すると、ロードプロセスによって次のエラーが生成される。 [ERROR] com.informatica.mdm.batch.Load.LoadWorker: java.lang.ClassCastException: java.math.BigDecimal cannot be cast to java.lang.String
MDM-10943	ステージングテーブルで「差分検出」と「前の重複が拒否された場合にステージングを許可します」を有効にした場合、ステージジョブによって拒否テーブルのレコードがステージングされない。
MDM-10942	データベースのアップグレードスクリプトにより、システムカラムおよびユーザー定義カラムの表示名にプレフィックス CLM% が追加される。

参照番号	説明
MDM-10856	親ベースオブジェクトで一致ジョブを実行すると同時に、子ベースオブジェクトで Put 呼び出しを実行することができる。親ベースオブジェクトから子ベースオブジェクトへの一致パスがある場合、親 DRTY テーブルでロックの問題が発生します。
MDM-10520	複数の相互参照レコードがあるベースオブジェクトを更新する場合、MDM Hub が複数のメッセージをメッセージキューに送信する。
MDM-10448	大文字と小文字を区別しない検索に対して相互参照カラムを有効にし、相互参照カラムを追加で作成した場合、自動マージジョブを実行すると、MDM Hub により、新しい方の相互参照カラムが無効化されます。
MDM-10435	一致分析ジョブが失敗し、次のエラーが表示されることがある。 SIP-16080: 検索範囲を保留にしようとしたときに、SQL エラーが発生しました。エラー: SIP-10313: ロックを取得できませんでした: SIP-10322: 'c'付近に不正な構文があります
MDM-10280	SOAP インタフェースから executeBatchUnmerge SIF を呼び出すと、ログファイルでエラーが生成される。
MDM-10264	カスタムクエリを保存すると、クエリが応答しなくなる場合がある。
MDM-10225	sip_ant updatemasterdatabase を実行しているときに、データベース移行スクリプトが失敗し、次のエラーが発生する:ORA-00959: テーブルスペース'CMX_IND'が存在しません
MDM-10220	ベースオブジェクトテーブルのカラムを PUT 可能としてマークすると、ロードプロセスにより、ベースオブジェクトレコードおよび相互参照レコードの PUT 可能カラムに NULL 値が誤って書き込まれることがある。
MDM-10101	リアルタイム操作が並列で実行される場合に一致プロセスが失敗する。
MDM-10095	同じ名前を持つ複数のオペレーショナル参照ストア (ORS) があり、ユーザーイグジット JAR ファイルを各 ORS にインポートすると、プロセスサーバーの起動に失敗し、致命的な例外が発生する。
MDM-10076	バッチマージ解除ジョブを実行すると、同じベースオブジェクトに関連付けられた複数の相互参照をマージ解除することはできず、エラーが発生する。
MDM-9105	レコードに対する編集が承認された後、同じレコードを再度編集すると、C_REPOS_TASK_ASSIGNMENT_HIST テーブルの interaction_id カラムに NULL 値が書き込まれる。この問題は、Siperian BPM を使用し、Hub ストアが Microsoft SQL Server または IBM DB2 にある場合に発生する。
MDM-9930	同じ名前を持つ複数のオペレーショナル参照ストア (ORS) があり、ユーザーイグジット JAR ファイルを各 ORS にインポートすると、プロセスサーバーの起動に失敗し、致命的な例外が発生する。
MDM-9860	Hub コンソールからパッケージの更新または昇格を行うと、対応する Oracle ビューに付与したすべてのユーザー特権が削除される。
MDM-9792	一致分析ジョブが失敗し、次のエラーメッセージが表示されることがある。 Comparison method violates its general contract!
MDM-9610	ベースオブジェクトレコードの場合は、複数のソースシステムにメッセージトリガを設定できる。このベースオブジェクトレコードの更新ごとに、1 つのメッセージではなく複数のメッセージがキューにバブリッシュされる。

参照番号	説明
MDM-9597	バッチグループの権限を管理者ではないユーザーに割り当てることができる。このユーザーがリモートコンピュータから Hub コンソールにログインすると、バッチグループを表示するまで最大で 15 分間かかることがある。
MDM-9573	バッチグループで失敗したジョブがジョブ制御テーブルでログされない。 制限: データベース接続の問題が原因でジョブが失敗すると、失敗したジョブをジョブ制御テーブルに表示することができない。エラーは cmxserver ログに表示される。 ログファイルのメッセージ詳細が強化された。
MDM-9439	メタデータ検証プロセスで次のエラーが発生する。 SIP-PV-10225: データベース内の 'C_XREF' のカラム 'V_' のデータ型 'VARCHAR2' が、メタデータ内の 'INT' と異なります。 この問題は、データベースの文字型がメタデータの文字型と一致しない場合に発生する。
MDM-9431	要求で ExecuteBatchExtractBVTversions 要素に limitDate パラメータを指定すると、タイムライン抽出プロセスによって、limitDate パラメータの時間部分が無視される。
MDM-9430	データベースのユーザーイグジットを有効にすると、ロードプロセスは失敗し、次のエラーが表示される。 java.rmi.RemoteException: java.lang.ClassCastException: oracle.jdbc.driver.T4CConnection cannot cast to com.delos.cmx.server.dataLayer.ConnectionData
MDM-9427	ベースオブジェクトテーブルのカラムを PUT 可能としてマークすると、ロードプロセスにより、ベースオブジェクトレコードおよび相互参照レコードの PUT 可能カラムに NULL 値が誤って書き込まれることがある。
MDM-9405	タイムライン抽出プロセスを実行すると、抽出されたレコードは、creator、create_date、および updated_by_fields カラムが空白または NULL になる。
MDM-9308	カスタムクエリに 4,000 文字以上が含まれていると、searchQuery API が失敗して構文エラーが発生する。
MDM-9279	複数のステージジョブを並列で実行するバッチグループを同じランディングテーブルに対して実行すると、ステージジョブが失敗し、次のエラーが表示される。 "ORA-00955: 既存のオブジェクトによって名前がすでに使用されています"
MDM-9216	バッチグループの権限を管理者ではないユーザーに割り当てることができる。このユーザーがリモートコンピュータから Hub コンソールにログインすると、バッチグループを表示するまで最大で 15 分間かかることがある。
MDM-9211	孫ベースオブジェクトに対して設定された階層がある場合、WriteBE ビジネスエンティティサービスでレコードがビジネスエンティティに挿入されず、以下のエラーが生成される。 "errorCode": "SIP-50100", "errorMessage": "com.siperian.sif.message.hm.AddRelationshipResponse cannot be cast to com.siperian.sif.message.mrm.PutResponse"
MDM-9196	挿入または更新を実行するたびに、複数のメッセージがメッセージキューにパブリッシュされる。
MDM-9005	マージ解除イベントで送信メッセージがトリガされない場合がある。
MDM-9002	cmxserver ログおよびクレンジングログが最大サイズに達したときにロールオーバーされない。この問題の解消の一環として、新しいログファイルが追加されました。ロギングの詳細については、『環境設定ガイド』を参照してください。

参照番号	説明
MDM-8897	アップグレード後、生成された汎用のサービス統合フレームワーク (SIF) WSDL が無効になる。
MDM-8861	バッチマージ解除ジョブを実行すると、同じベースオブジェクトに関連付けられた複数の相互参照をマージ解除することはできず、エラーが発生する。
MDM-8800	更新タスクが作成されて承認されると、タスク割り当て履歴テーブル <code>c_repos_task_assignment_hist</code> が有効な相互作用 ID 値で更新されない。
MDM-8756	複数のカラムがプライマリキーにデータを提供していて、プライマリキーの派生元であるカラムのいずれかが NULL の場合、データ検出を有効にするとステージジョブが失敗する。
MDM-8722	初期ロードジョブ後に実行されるロードジョブの間はソースシステムキーを保持できない。
MDM-8666	一部の SearchMatch 要求が SearchMatch ワークスレッドとの同期の問題により失敗する。この問題は、ペースの速い環境でランダムに発生する。
MDM-8527	複数のソースシステムのデータがタイムラインを有効にしたベースオブジェクトに存在する場合、過去、現在、将来のデータのベストバージョンオブトゥールズ (BVT) を取得できない。
MDM-8201	バッチビューアを開いてから Hub コンソールのサイズを小さくすると、一部の情報が画面に表示されず、スクロールバーが表示されない。
MDM-7188	レコードのマージ後、前から存在していたタスクが廃止されなくなる。タスクは Informatica Data Director のタスクインボックスに表示され続けます。これらのタスクのいずれかを開くと、エラーが表示されます。
MDM-7164	ステージプロセス中に、デルタ検出操作のパフォーマンスが低下する。
MDM-7173	ベースオブジェクトレコードの行 ID が相互参照レコードの行 ID と異なる場合、履歴ビューのルックアップで誤ったイベントの詳細が表示される。
MDM-6266	既存のデータよりも信頼値が高いデータをロードした後で、信頼計算が不正になる。
MDM-5639 HORA-46448	変更された有効日が元の有効日と連続していないと、[保存のためにマーク] アクションが失敗する。
MDM-5577	[昇格] API を使用する場合、ソースキーを指定しないと、MDM Hub で完全なテーブルスキャンとなる SQL 文が実行され、パフォーマンスが低下する。
MDM-805	Informatica Platform のステージングを実行する場合、Hub コンソールで登録されたオペレーショナルリファレンスストアが複数存在すると、メタデータが不正確になることがある。別のオペレーショナルリファレンスストアに同じ名前のベースオブジェクトがあると、ステージングテーブルメタデータへの更新が不正確になります。

Informatica Data Director で解消された制限事項

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-13920	韓国語のユーザー名で IDD アプリケーションにログインすると、例外が発生してログインに失敗する。
MDM-13625	カスタムログインプロバイダモジュールを使用して Informatica Data Director にログインすると、メインページが正しく表示されない。
MDM-13453	同じオペレーショナル参照ストアで異なるサブジェクト領域名を使用する複数の Informatica Data Director アプリケーションがある場合、ログインすると NULL ポインタ例外が発生する。
MDM-13452	カスタムログインプロバイダモジュールを使用して Informatica Data Director にログインすると、メインページが正しく表示されない。
MDM-13119	データビューでエンティティの [リレーション] セクションが展開されず、次のエラーが表示される場合がある。 "ORA-12704: character set mismatch for GET ONEHOP"
MDM-13110	選択したドロップダウン値をクリアできない。
MDM-12943	ビジネスエンティティで ReadCO サービスを使用しているときに、フィールド内のテキストのドル記号 (\$) が含まれていると GET 要求が失敗する。
MDM-12874	[言語の変更] をクリックしてロケールを選択しても、ユーザーインターフェースのテキストが変更されない。
MDM-12700	IDD でタスクをロードすると、次のエラーが発生してプロセスが失敗する場合がある。 SIP-10324: クエリのために開き、キャッシュに格納した JDBC オブジェクトを閉じることができません
MDM-12692	MDM Hub 環境で ActiveVOS を設定している場合、IDD においてマージタスクでレコードをマージするのに失敗する場合がある。
MDM-12516	別のソースで作成されたエンティティのレコードを更新すると、Informatica Data Director が空の有効日で相互参照レコードを作成する。
MDM-12211	アプリケーションが ZIP ファイル内にあると、Informatica Data Director アプリケーションの他の環境へのインポートに失敗する。
MDM-12013	アポストロフィが含まれるレコードの上にポインタを移動しても、元の値とマージされた値がマージのプレビューに表示されない。
MDM-11862	従来の一致ビューからデータビューでマージ候補を開き、変更を行って保存してから一致ビューに戻ると、一致候補で最新データが表示されない場合がある。置換の一致するレコードビューで、一致候補を開いて変更することができません。他の IDD インスタンスの一致候補への変更はビューで反映されます。
MDM-11392	承認保留中のタスクを開くと、子ルックアップカラムの従属ルックアップ値で、元の値の説明がコードとして表示される。
MDM-11282	レコードを更新して XREF ビューを選択すると、次のエラーメッセージが表示される。 現在のマスターレコードの相互参照が見つかりません。

参照番号	説明
MDM-11152	階層ビューの【フィルタ】タブでエンティティタイプを無効にすると、これらのエンティティとのリレーションを作成できない。 回避策: リレーションを作成する前に【フィルタ】タブを開き、リレーションで使用するエンティティタイプを選択します。
MDM-11087	Informatica Data Directory にログインしてブラウザでリダイレクトされた URL をブックマークすると、ブックマークされた URL で Informatica Data Director が開かない。
MDM-11085	LDAP 認証が有効になっている場合、Informatica Data Director へのログインはできるが、ユーザー名がページの右上に表示されない。
MDM-11083	保留中の ActiveVOS タスクレコードを更新すると、変更を適用したときに Informatica Data Director で保留中の状態が保持されない。
MDM-11077	別のユーザーと同時にサブジェクト領域レコードを保存すると、エラーが表示される場合がある。
MDM-11002	【一致候補】領域で、一致するレコードの数がページサイズを超えたときに、残りの一致するレコードが追加ページに表示される。一致するレコードをソートしたときに、表示されているページの一致するレコードはソートされるが、他のページの一致するレコードが非表示になる。
MDM-10950	複数のソースシステムからの相互参照レコードがあるレコードのタスクを作成すると、NULL ポインタ例外が発生する。
MDM-10867	有効でないユーザー資格情報を使用してログインすると、空白のページが表示される。
MDM-10866	複数の言語をサポートするためにルックアップテーブルをローカライズした後で、一部のドロップダウンリスト内の値が選択したロケールを反映しない。
MDM-10801	データセキュリティフィルタが子一致パスカラムで正しく機能しない。
MDM-10686	別のソースで作成されたエンティティのレコードを更新すると、Informatica Data Director が空の有効日で相互参照レコードを作成する。
MDM-10637	トルコ語文字が含まれるレコードを検索できる。
MDM-10629	複数のソースシステムからの相互参照レコードがあるレコードのタスクを作成すると、NULL ポインタ例外が発生する。
MDM-10626	【階層】ビューで、レコードの履歴が想定どおりに表示されない。
MDM-10616	Microsoft SQL Server 環境でリレーションタイプを階層に追加した場合、Informatica Data Director でリレーションタイプが Metadatabundle.properties ファイルに追加されない。
MDM-10543	親レコードを編集してから【キャンセル】をクリックすると、親レコードの孫レコードで読み取り専用ステータスが保持されない。
MDM-10528	マージタスクを開くときに想定より時間がかかる。
MDM-10524	依存ルックアップが保存済み検索クエリで機能しない。
MDM-10523	サブジェクト領域でタイムラインが有効な親レコードを更新すると、タイムラインが有効でない子レコードに更新用にマークした子レコードがある場合、IDD アプリケーションが失敗し、IndexOutOfBoundsException エラーが発生する。

参照番号	説明
MDM-10323	オペレーショナルリファレンスストアのメタデータが有効でない場合、Informatica Data Director でデプロイされたアプリケーションのリストが表示されない。別の有効なオペレーショナルリファレンスストアを使用するアプリケーションも使用できなくなる。 デプロイされたアプリケーションのリストを表示するには、cmxserver.properties ファイルを編集して以下のプロパティを追加する。 <pre>cmx.display.deployed.invalid.met.app=true</pre>
MDM-10295	INT 値をキーとしてデータをルックアップテーブルにインポートできる。インポートプロセスに 2³² より大きい整数値が含まれている場合、プロセスで java.lang.NumberFormatException エラーが発生します。
MDM-10272	一部の検証エラーメッセージで、サブジェクト領域が表示名ではなく名前によって識別される。この問題は、リレーションタイプ [プライマリの一部] のサブジェクト領域の子レコードで発生する。
MDM-10120	レコードを作成するときに、レコードの 1 対 1 の子サブジェクト領域が空白になり、[一致] ビューで 1 対 1 の子の値が表示されない。
MDM-10098	[データ] ビューで、一部の必須フィールドが強制されない。この問題は、必須フィールドがリレーションタイプ [プライマリの一部] のサブジェクト領域の子レコードに属している場合に発生する。
MDM-10097	Hub サーバーの http-only プロパティと cookie-secure プロパティが Informatica MDM Multidomain Edition 9.7.1 以降で機能しない。
MDM-10074	includeChildrenToSearchResults プロパティを有効にすることで、検索結果に子レコードを含めることができる。検索結果からレコードを開いて親レコードを更新する場合、検索結果タブに戻ると、子レコードの値が表示されない。
MDM-10073	データ型が NUMBER(15,8) の場合、Informatica Data Director でゼロの値が 0 ではなく 0E8 として表示される。
MDM-10059	レコードの有効期間を更新すると、一部のカラムが NULL 値で保存されることがある。
MDM-10058	新しい有効期間のデータを作成して保存できない。以下のエラーが発生する: SIP-10165: Input value is required for column: ROWID_OBJECT.
MDM-10056	[履歴] ビューで、サブジェクト領域の子レコードが表示名ではなく名前によって識別される。
MDM-10053	クエリを保存するときに、保存プロセスが失敗してエラーが発生する。この問題は、クエリが [一部] リレーションタイプによるベースオブジェクトレコードに関連したレコードを参照する場合に発生する。
MDM-10051	子の [XREF] タブを開いても、情報が表示されない。
MDM-10049	最初に Informatica Data Director にログインしたときに、ログインプロセスにかかる時間が想定より長くなる。
MDM-10045	WebLogic 環境で、Informatica Data Director がユーザーをログインページにリダイレクトすると、ログインページではなく空白ページが表示される。

参照番号	説明
MDM-10041	ベースオブジェクトで履歴を有効にして GET Package API を使用してベースオブジェクトをクエリすると、クエリが失敗しデータアクセスエラーが発生する。この問題は、子と親の相互参照レコード間のトレーサビリティを改善するために追加されたシャドウカラムに関連している (MDM-3492)。
MDM-10035	レコードの有効期間を編集して保存すると、以下のエラーが発生する: SIP-40609: Cannot edit the record.The PERIOD_REFERENCE_TIME that you specified is not within the effective period for the record you are editing.
MDM-10030	複数の孫レコードが異なる一致パスを経由して同じベースオブジェクトにアクセスする場合、関連付けられたタスクの詳細を表示できない。
MDM-9974	Informatica MDM MDE バージョン 10 HotFix 2 EBF 6 をインストールすると、ユーザーがタスクを要求したり開いたりすることができなくなる。
MDM-9955	オペレーショナルリファレンスストアのメタデータが有効でない場合、Informatica Data Director でデプロイされたアプリケーションのリストが表示されない。別の有効なオペレーショナルリファレンスストアを使用するアプリケーションも使用できなくなる。 解決策: デプロイされたアプリケーションのリストを表示するには、cmxserver.properties ファイルを編集して以下のプロパティを追加します。 cmx.display.deployed.invalid.met.app=true
MDM-9821	タイムラインを有効にしたベースオブジェクトで、将来の日付または過去の日付のリレーションを作成できない。
MDM-9818	階層マネージャの「履歴」ビューが想定どおりに機能しない。タイムラインを有効にしたベースオブジェクトで、将来の日付または過去の日付のリレーションを作成できない。
MDM-9798	階層ビューで、レコードのリレーション履歴のイベント詳細を表示すると、エラーが発生する。
MDM-9622	検索クエリの子の外部キーに特定のオプションがある場合、searchQuery API で不正な検索結果が返される。
MDM-9620	「検索結果」からデータの完全なエクスポートを実行するときに、一部のフィールドが失われる。失われたフィールドは、リレーションタイプ「 プライマリの一部 」のサブジェクト領域の子レコードに属している。
MDM-9615	「検索結果」ページからタスクを作成すると、タスクが正常に作成されたという確認メッセージが表示されない。
MDM-9612	「履歴」ビューで、サブジェクト領域の子レコードが表示名ではなく名前によって識別される。
MDM-9608	承認のためにタスクを送信した後で、セキュリティフィルタが原因で新規レコードが表示されないという警告メッセージが表示される。タスクが承認された後には、レコードが表示される。
MDM-9606	子の「XREF」タブを開いても、情報が表示されない。
MDM-9556	ユーザー名に大文字が使われていると、タスクインボックスでそのユーザーのタスクが表示されない。
MDM-9554	外部認証で Informatica Data Director にログインすると、タスクインボックスに保留中のタスクが含まれず、ログに NullPointerException エラーが記録される。

参照番号	説明
MDM-9551	WebLogic 環境で、Informatica Data Director がユーザーをログインページにリダイレクトすると、ログインページではなく空白ページが表示される。
MDM-9490	REST API を使用して階層マネージャに対して有効であるエンティティに有効期間を追加した後、相互参照テーブルに指定された期間の開始日と終了日が含まれない。
MDM-9440	親レコードに複数の子または孫レコードがあり、子または孫レコードのいずれかを更新したときに、保存プロセスにかかる時間が想定より長くなる。
MDM-9391	XREF ビューで、リレーションタイプ 【プライマリの一部】 のサブジェクト領域の子レコードのフィールドが表示されない。
MDM-9388	検索フィールドで、ドロップダウンリストが空になる。このフィールドが含まれるルックアップカラムは、リレーションタイプ 【プライマリの一部】 のサブジェクト領域の子レコードにある。
MDM-9383	子レコードの有効日を変更すると、Informatica Data Director で同じ有効日が親レコードに適用される。
MDM-9365	レビューアがデータを編集してタスクを承認すると、検証プロセスが実行される前に 【コメント】 ダイアログボックスが表示される。この問題は、ユーザーイグジットがタスクを処理した場合に発生する。
MDM-9213	外部ユーザーとしてビジネスエンティティを作成して承認のために送信しても、Informatica Data Director でビジネスエンティティの確認タスクが作成されない。この問題は、MDM Hub が ActiveVOS サーバーをデフォルトのワークフローエンジンとして、およびユーザープロフィールを管理するための外部ユーザープロフィールプロバイダとして使用している場合に発生する。
MDM-9196	挿入または更新を実行するたびに、複数のメッセージがメッセージキューにパブリッシュされる。
MDM-9179	カスタムクエリに 4,000 文字以上が含まれていると、searchQuery API が失敗して構文エラーが発生する。
MDM-8866	階層マネージャで、リレーションを作成してからリレーションを終了すると、以下のエラーが発生する。 SIP-10321: Error updating relationship record
MDM-8854	ベースオブジェクトで履歴を有効にして GET Package API を使用してベースオブジェクトをクエリすると、クエリが失敗しデータアクセスエラーが発生する。この問題は、子と親の相互参照レコード間のトレーサビリティを改善するために追加されたシャドウカラムに関連している (MDM-3492)。
MDM-8846	includeChildrenToSearchResults プロパティを有効にすることで、検索結果に子レコードを含めることができる。検索結果からレコードを開いて親レコードを更新する場合、検索結果タブに戻ると、子レコードの値が表示されない。
MDM-8838	孫サブジェクト領域で開いていないレコードを選択すると、ロードプロセスが実行される。レコードのロード中に 【追加】 ボタンをクリックすると、NullPointerException エラーが発生する。
MDM-8836	データ型が NUMBER(15,8) の場合、Informatica Data Director でゼロの値が 0 ではなく 0E8 として表示される。

参照番号	説明
MDM-8833	階層マネージャで [1 ホップを取得] をクリックすると、以下のエラーが発生する。 SIP-10324: The data types nvarchar and datetime2 are incompatible in the add operator. この問題は、エンティティラベルが日付カラムを使用する場合に発生する。
MDM-8761	有効期間を更新すると、以下のエラーが発生する。 SIP-40608: Cannot update the effective period. The start date or end date is not valid. この問題は、相互参照レコードに開始日と終了日の NULL 値が含まれる場合に発生する。
MDM-8759	ROWID_OBJECT 値と ROWID_XREF 値の競合が原因で、検索結果に不正な値が含まれる場合がある。
MDM-8736	[XREF] ビューで、レコードの信頼が有効なカラムの値が正しくない。
MDM-8683	レコードの有効期間を更新すると、一部のカラムが NULL 値で保存されることがある。
MDM-8681	新しい有効期間のデータを作成して保存できない。以下のエラーが生成される。 SIP-10165: Input value is required for column: ROWID_OBJECT.
MDM-8680	サブジェクト領域でタイムラインが有効な親レコードを更新すると、タイムラインが有効でない子レコードに更新用にマークした子レコードがある場合、IDD アプリケーションが失敗し、IndexOutOfBoundsException エラーが発生する。
MDM-8642	レコードの有効期間を編集して保存すると、以下のエラーが発生する: SIP-40609: Cannot edit the record. The PERIOD_REFERENCE_TIME that you specified is not within the effective period for the record you are editing.
MDM-8533	階層ビューで [アクション] > [履歴ビュー] を選択し、ベースオブジェクトの更新イベントを選択してから [イベントの詳細の表示] をクリックすると、アプリケーションがクラッシュする。
MDM-7190	子レコードと孫レコードは同時に編集できるが、孫レコードに編集を適用して、子レコードの編集をキャンセルすると、NullPointerException が発生する。
MDM-7173	ベースオブジェクトレコードの行 ID が相互参照レコードの行 ID と異なる場合、履歴ビューのルックアップで誤ったイベントの詳細が表示される。
MDM-5639 HORA-46448	変更された有効日が元の有効日と連続していないと、[保存のためにマーク] アクションが失敗する。
MDM-5577	[昇格] API を使用する場合、ソースキーを指定しないと、MDM Hub で完全なテーブルスキャンとなる SQL 文が実行され、パフォーマンスが低下する。
MDM-805	Informatica Platform のステージングを実行する場合、Hub コンソールで登録されたオペレーショナルリファレンスストアが複数存在すると、メタデータが不正確になることがある。別のオペレーショナルリファレンスストアに同じ名前のベースオブジェクトがあると、ステージングテーブルメタデータへの更新が不正確になります。

プロビジョニングツールで解消された制限事項

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-11114	ビジネスエンティティモデルからフィールドを削除すると、エラーコード: 5003 の内部サーバーエラーが発生する。
MDM-8561	モデリングページを開くときに、サポートされていない依存ルックアップの設定があると、エラーが発生する。スキーマのルックアップは、別のルックアップではなくビジネスエンティティルートの一のフィールドに依存します。 回避策: IDD 構成ファイルで、ルックアップの<lookupDependency/>を<subtypeQualifier>に置き換えます。
MDM-8518 MDM-12346	プロビジョニングツールでフィールドの検索プロパティを設定する場合、バッチジョブを実行して検索データの初期インデックス処理を実行するとエラーが発生する。 回避策: フィールドの検索プロパティで言語を指定します。
MDM-8091	ビジネスエンティティのフィールドのモデリング時に【ファセット】チェックボックスをオンにしていなくても、ファセット範囲の値を入力できる。ファセット範囲に入力した値は、【ファセット】チェックボックスをオンにしないと、プロビジョニングツールで無視されます。
MDM-7840	オペレーショナル参照ストアを選択してから【モデリング】タブをクリックすると、エラーが発生することがある。 回避策: Hub コンソールで、オペレーショナル参照ストアを再度登録し、アプリケーションサーバーを再起動します。
MDM-7766	プロビジョニングツールを使用して、スペースが含まれるビジネスエンティティ名を作成すると、MDM Hub が破損する。 回避策: 名前にスペースを含めないでビジネスエンティティを作成します。

エンティティ 360 フレームワークに基づいた IDD ビュー - 解消された制限事項

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-8571 HORA-51893	データビューでは保留中として表示されるレコードが、ビジネスエンティティビューでは保留中として表示されず、保留中のレコードをビジネスエンティティビューで編集できない。
MDM-8149	タスクの設定を変更すると、タスクマネージャでエラーが生成される。 回避策: アプリケーションサーバーを再起動します。
MDM-6058	タスクマネージャで、タスクのタイトルにカンマや括弧など、英数字以外の文字が含まれていると、タスクをフィルタリングできない。 回避策: タスクタイトルには英数字のみを含めるようにします。

スマート検索で解消された制限事項

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-10619	検索結果にはシステムフィールドが含まれません。この問題は、Search BE REST API で readSystemFields パラメータがサポートされていないため発生します。
MDM-10232 MDM-10007	Hub サーバーとプロセスサーバーが個別のマシンにインストールされていると、スマート検索が機能しない。
MDM-8599	スマート検索要求で検索結果に保留中のレコードが返されない。
MDM-5785	スマート検索要求で 1970 年より前の日付がファセットされない。
MDM-3246 HORA-51758	データマネージャでレコードを手動でマージまたはマージ解除しても、マージまたはマージ解除されたレコードがスマート検索要求から返されない。

ActiveVOS で解消された制限事項

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-11134	要求されたタスクが Informatica Data Director で同じロールを持つ他のユーザーに表示されない。
MDM-10946	外部ユーザーとしてビジネスエンティティを作成して承認のために送信しても、Informatica Data Director でビジネスエンティティの確認タスクが作成されない。この問題は、MDM Hub が ActiveVOS サーバーをデフォルトのワークフローエンジンとして、およびユーザープロファイルを管理するための外部ユーザープロファイルプロバイダとして使用している場合に発生する。
MDM-9080	レビューアがタスクを承認しても、タスクへの応答でレビューアの資格情報が返されない。
MDM-9040	ActiveVOS を使用している場合、レビューアはコメントを追加しなくても提案された変更内容に対してアクションを実行できる。すべてのタスクアクションに対してコメントを必須にするには、manualReassign=true を設定します。

参照番号	説明
MDM-8888	ActiveVOS を使用している場合、タスク数に応じた表示されるはずのページ数に関係なく、タスクインボックスに 1 ページしか表示されない。タスク数がページあたりのタスクカウントを上回る場合、ページあたりのタスクカウントを上回るタスクはタスクインボックスに表示されません。 指定した数のタスクが各ダッシュボードページに表示されるように設定するには、dashBoardTasksPerPage プロパティを追加します。 dashBoardTasksPerPage プロパティを MDM Hub マスタデータベースに追加するには、cmx_system ユーザーとして次のクエリを実行します。 <pre>insert into C_REPOS_DS_PREF_DETAIL (ROWID_DS_PREF_DETAIL, ROWID_DS_PREF, NAME, VALUE)select 'BDDGP.1', rowid_ds_pref, 'dashBoardTasksPerPage', '<number of tasks to display on each dashboard page>'from C_REPOS_DS_PREF where name = '__SYSTEM_PREFERENCES_ROOT__';</pre> 各ダッシュボードページに表示されるタスク数は、次のいずれかの値に設定できます。 - 10 - 25 - 50 - 100
MDM-8002	ActiveVOS および MDM ID プロバイダを使用して電子メールエスカレーションを作成する方法が明確でない。
MDM-6506	別のユーザーによって引き受けられたタスクがタスクマネージャに表示され、編集できる。 回避策: 別のユーザーによって引き受けられたタスクは編集しないようにします。

ビジネスエンティティサービスで解消された制限事項

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-10294	子レコードが多数ネストされた複合レコードを取得する要求を送信すると、取得のパフォーマンスが低くなる。 注: 想定より少ないレコードが表示されます。回避策: 表示されるレコードを増やすには、MDM Hub コンソールのデータベース設定ツールで、GET List の上限を最大値である 5999 に設定します。
MDM-7291	REST API を使用して子レコードを Person レコードに投稿すると、エラーが発生する。 回避策: 次のコード行を Transformations_config.xml ファイルに追加します。 <pre><group source="Person" target="Person"> </group> <group source="Organization" target="Organization"> </group></pre>
MDM-5333	ビジネスエンティティの子レコードでは一致とマージがサポートされず、子レコードに一致レコードを追加しようとすると、データが破損する可能性がある。

階層マネージャの解消された問題

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-10052	階層マネージャで、レコードのリレーション履歴のイベント詳細を表示すると、エラーが発生する。
MDM-10057	階層マネージャで、リレーションを作成してからリレーションを終了すると、以下のエラーが発生する。 SIP-10321: Error updating relationship record.

ユーザーイグジットで解消された制限事項

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-11174	ロード後ユーザーイグジットを使用して自動マージを実行すると、自動マージプロセスが失敗し、次のエラーが表示される。 [ERROR] com.informatica.mdm.batch.automerge.BatchAutomerge: Automerge block failedjava.lang.RuntimeException: Unable to obtain User Exit Sif Service instance
MDM-10300	同じ名前を持つ複数のオペレーショナル参照ストア（ORS）があり、ユーザーイグジット JAR ファイルを各 ORS にインポートすると、プロセスサーバーの起動に失敗し、致命的な例外が発生する。

サービス統合フレームワークで解消された制限事項

以下の表に解消された制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-10522	タイムラインが有効なオブジェクトへのサービス統合フレームワーク（SIF）呼び出しを作成する場合、すべてのカラムを渡さないと、SIF 呼び出しが失敗する。
MDM-10429	PUT API 呼び出しを行うと、更新された値が相互参照レコードの外部キーカラムに格納されない。
MDM-10221	アップグレード後、生成された汎用のサービス統合フレームワーク（SIF）WSDL が無効になる。

実装された拡張要求

MDM Hub に実装された拡張要求

次の表に、実装された拡張要求を示します。

参照番号	説明
MDM-13461	タイムライン抽出ジョブが失敗した場合、MDM Hub が拒否されたレコードを拒否テーブルに送信する。タイムライン抽出ジョブを再び実行すると、MDM Hub が拒否されたレコードを処理します。デフォルトでは、タイムライン抽出ジョブは最後の 10 個のジョブの拒否されたレコードの履歴を保持します。 拒否されたレコードを保持するためにジョブの数を指定するには、cmxserver.properties ファイルで cmx.server.batch.extractbvtversions.maxJobRejectExtractToKeep プロパティを設定します。
MDM-12273	Oracle GoldenGate バージョン 12.1.2.1 は MDM Multidomain Edition と互換性がある。
MDM-12150	WebSphere Application Server V8.5.5 Fix Pack 8 に MDM Hub をデプロイできる。
MDM-10611	Hub コンソールのクレンジング関数ツールで、Address Doctor フィールド [都道府県項目 1 ISO] をカラムとして追加できる。
MDM-9326	Hub コンソールから 【ギャップを埋める】 プロパティを有効にできる。
MDM-9004	パブリッシュプロセスをマルチスレッド処理にすることで、Hub サーバーのメッセージキューのパブリッシュプロセスが改善された。パブリッシュプロセスでメッセージを並列でパブリッシュすることができ、ボトルネックが軽減されている。

Informatica Data Director に実装された拡張要求

次の表に、実装された拡張要求を示します。

参照番号	説明
MDM-13404	検索結果に相互参照レコードが含まれていると、検索結果でシステムカラムを含むレコード内のすべてのカラムが表示される。
MDM-11832	従来的一致ビューのエンティティ 360 フレームワークバージョンである一致するレコードビューで、子孫レコードのすべてのレベルでの一致候補が表示される。
MDM-11671	検索結果に相互参照レコードが含まれていると、検索結果でシステムカラムを含むレコード内のすべてのカラムが表示される。
MDM-10855	マージタスクを開くときに、一致するレコードビューで選択したマージ候補のみの表示を選択できる。 【表示】 メニューから、 【選択したカラムのみを表示】 を選択する。
MDM-10113	マージタスクを実行すると、Informatica Data Director によって、マージされたレコードが表示されます。

参照番号	説明
MDM-10539	タスクが拒否されると、拒否された理由を詳しく説明したコメントがユーザーイグジットに表示されるようになりました。
MDM-8835	総合参照ビューでシャドーカラムを表示または非表示にするように Informatica Data Director を設定できます。

ビジネスエンティティサービスに実装された拡張要求

次の表に、実装された拡張要求を示します。

参照番号	説明
MDM-12230	子レコードが多数ネストされた複合レコードを取得する要求を送信すると、応答に含まれる URL リンクの数で原因で応答のサイズが大きくなる場合がある。 拡張: リンクを除外するには、要求で以下のパラメータを設定します: suppressLinks=true

既知の制限事項

以前の既知の制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

MDM Hub の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-14943	WebSphere 環境で、Hub コンソールにログインすると、次の誤解されやすいエラーが表示される場合がある。 SIP-11101: クレンジング致サーバーのライセンスが無効であるか期限が切れています。 回避策: Hub コンソールにログインする前に、-Dcom.ibm.crypto.provider.DoRSATypeChecking Java オプションが false に設定されていることを確認します。この Java オプションは、データ暗号化が許可され、パスワードのハッシュを機能させるために必要かどうかを指定します。
MDM-13617	WebSphere バージョン 8.5.5.9 環境で、クレンジングログにスタックトレースエラーが表示される。スタックトレースエラーは次のテキストから始まります。 <code>v01/installedApps/INCMMDMHUBQANode01Cell/siperian-mrm-cleanse.ear.ear/siperian-mrm-cleanse.war/WEB-INF/lib/com.informatica.mdm-siperian-cleanse-10.2.0-SNAPSHOT.jar!/resources/infinispanConfig.xml</code> 回避策: このエラーは無視しても問題ありません。
MDM-13372	Microsoft SQL Server と JBoss の環境で、MDM Hub のデプロイ後にアプリケーションサーバーを再起動すると、エラーが発生する。 回避策: このエラーは無視します。

参照番号	説明
MDM-11898	複数のベースオブジェクトで BVT バージョンの抽出バッチジョブを実行すると、最終抽出日が設定されない。
MDM-11089	マスタレコードを編集すると、ルックアップカラムの値がデフォルトのカラムの値に設定される。
MDM-10792	パーティション化されたテーブルがデータベースに含まれている場合、メタデータ検証プロセスで次の警告が生成される。 SIP-PV-10233 (31) - The tablespace of a table in the database differs from the tablespace specified in the metadata. この警告は無視して構いません。
MDM-10476	1つのレコードと大量の相互参照レコードのマージを解除すると、プロセスサーバーでメモリ不足エラーが生成される。
MDM-10201	変更リストを階層が有効になったスキーマに昇格させるには、MDM Hub 管理者特権が必要となる。
MDM-9902	ベースオブジェクトで [相互参照の昇格の履歴を有効にする] を有効にしても、相互参照の昇格の履歴が保持されない。
MDM-9816	WebSphere を使用してポートが異なる 2 つのマッピングがある Informatica Data Quality クレンジング関数を更新すると、次のエラーが表示される。 SIP-11134: Compile failed for compile command
MDM-9604	ビジネスエンティティ設定を使用して空の変更リストをオペレーショナル参照ストアに昇格させると、昇格に失敗して次のエラーが表示される。 'CO CS Configs\TaskConfiguration\Task Types\AVOSBeNotification\Task Roles\DataSteward'が依存しているため、オブジェクトを削除できません。(deleteRole[id:ROLE.DataSteward]) 回避策: DataSteward ロールをターゲットのオペレーショナル参照ストアから削除してから、変更リストを昇格させます。
MDM-9220	MDM Multidomain Edition バージョン 9.6.1 から変更リストをインポートまたは昇格できない。
MDM-8738	MDM Hub ログファイル cmxserver.log が、指定された最大ファイルサイズを超えて増加する。
MDM-8588	初めて Hub コンソールでスキーマをインポートするときに、次のエラーが表示されることがある。 missing initial moveto in path definition 回避策: このエラーメッセージは無視します。
MDM-8060	MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 から変更リストをインポートまたは昇格すると、プロキシロールエラーが生成され、変更リストがインポートまたは昇格されない。
MDM-7786	新しいロールをユーザーに追加すると、オペレーショナル参照ストアが [無効] としてマークされる。

参照番号	説明
MDM-7592	ベースオブジェクトのカラムにマッピングされていないソースシステムで、カラムの有効な値が NULL 値でオーバーライドされることがある。例えば、SourceA と SourceB が BaseObjectC に関係しているとします。SourceA は、最小信頼度と最大信頼度の設定がゼロの状態 で ColumnX にマッピングされています。SourceB は、ColumnX にマッピングされておらず、その信頼設定はありませんが、BaseObjectC のほかのカラムにマッピングされています。SourceB で BaseObjectC が更新されると、ColumnX が誤って NULL 値で更新されず。 回避策: SourceA の最小信頼度の設定を 2 以上に変更します。
MDM-5830	MDM Hub のインストール後に、WebSphere アプリケーションサーバーのユーザー名とパスワードがインストールログに表示される。
MDM-1578	Hub コンソールのデータマネージャツールでアクティブな相互参照レコードを削除すると、レコードは削除されるがエラーが発生する。 回避策: このエラーは無視します。
HORA-52267	MDM Hub で、1 つのデータベースタイプで作成された変更リストが別のデータベースタイプのリポジトリにインポートできない。例えば、Oracle で作成された変更リストを、Microsoft SQL Server のリポジトリにインポートすることはできません。
HORA-52147	変更をメタデータに昇格させるためにカスタムクエリで変更リストを使用しても、変更リストの昇格が失敗する場合がある。 回避策: カスタムクエリで使用するテーブルから、オペレーショナルリファレンスストア名を削除します。
HORA-52123	カスタムパッケージを含むベースオブジェクトに対して状態管理を有効化しても、リポジトリマネージャの検証エラー、SIP-MV-10252 が解決されない。 回避策: カスタムパッケージを削除してから、状態管理を有効化します。
HORA-52062	MDM Hub で、Microsoft SQL Server に対して、大文字と小文字を区別するデータベース照合がサポートされていない。
HORA-52061	MDM Hub で、IBM DB2 に対して、物理削除検出機能がサポートされていない。
HORA-52060	MDM Hub で、IBM DB2 または Microsoft SQL Server 用のカスタム検証ルールがサポートされていない。
HORA-52027	オペレーショナルリファレンスストアに対するセキュリティアクセスマネージャ (SAM) のプロキシロールを持つユーザーが iDB Oracle を使用する場合、このロールに割り当てられていない機能も利用できる。特に、プロキシロールを持つユーザーは MET の昇格、[昇格] ボタン、および [インポート] ボタンを利用できます。
HORA-51844	Microsoft SQL Server 環境で、GetOneHop API 要求が応答を停止する場合がある。 回避策: リポジトリテーブル C_REPOS_SEARCH_RESULT_STATE に対し、LOCK_ESCALATION を DISABLED に設定します。
HORA-51710	複数のクレンジングサーバーが関係するため負荷が高くなる場合は、自動マージジョブが失敗することがある。 回避策: アプリケーションサーバーを再起動してから、自動マージジョブを再実行します。
HORA-50724	MDM Hub をインストールした後で、初めてステージジョブを実行しても、Hub コンソールにジョブメトリックが表示されない。ジョブメトリックが Hub コンソールに表示されるのは、次回以降のステージジョブからとなります。
HORA-50068	中国語で Hub コンソールを表示すると、日付が英語の形式になる。

Informatica Data Director の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-14411	WebSphere 環境で、WebSphere プロファイルを開始した後に初めてタスクを編集すると、[タスクの編集] ダイアログを開くのに予期したより時間がかかり、cmxserver.log でエラーが発生する。 回避策: このエラーは無視しても問題ありません。次にタスクを編集するときに、ダイアログは予期したとおりにエラーなく表示されます。
MDM-14193	IBM DB2 環境で、カスタムログインプロバイダファイルをインポートしようするとエラーが発生する。ログインプロバイダファイルはインポートされません。 回避策: IBM DB2 データベースに接続し、次のコマンドを実行して BLOB データサイズを大きくします。 SET SCHEMA CMX_SYSTEM ALTER TABLE CMX_SYSTEM.C_REPOS_DS_LOGIN_SETTINGS ALTER COLUMN BLOB_DATA SET DATA TYPE BLOB(10240000) CALL SYSPROC.ADMIN_CMD('REORG TABLE CMX_SYSTEM.C_REPOS_DS_LOGIN_SETTINGS LONGLOBDATA') 場所: - CMX_SYSTEM はスキーマ名です。 - 10240000 はバイト単位での BLOB サイズです。この数字は、ログインプロバイダファイルサイズに合わせて調整できます。
MDM-14154	タスクマネージャのタスクのタイトルが 254 文字より長いと、タスクが承認されたときに例外が発生する。
MDM-13802	プロビジョニングツールを使用してダッシュボードレポートビューを設定した場合、Informatica Data Director で、Jaspersoft レポートがわかりやすいレイアウトで表示されない。
MDM-13585	スマート検索とエンティティ 360 フレームワークを有効にして Informatica Data Director を起動すると、サーバーログに NULL ポインタエラーが表示される。 回避策: このエラーは無視しても問題ありません。
MDM-11035	タスクを複数のタスクタイトルでフィルタリングした場合、Informatica Data Director でタスクが正しく返されない。
MDM-10986	Internet Explorer では、タスクマネージャでタスクのタイトルおよびコメントの変更が反映されないことがある。 回避策: サポートされる別のブラウザを使用します。
MDM-10813	Firefox では、履歴ビューに時間バーが存在しない。この問題は、複数の相互参照レコードがあるビジネスエンティティをビジネスエンティティビューで開き、履歴ビューに移動した場合に発生します。 回避策: サポートされる別のブラウザを使用します。
MDM-10734 MDM-13472	ログインすると、Informatica Data Director によってユーザー資格情報がログイン URL の一部として Informatica Data Controls に渡される。デフォルトでは資格情報が暗号化されない。
MDM-9364	レビューアがデータを編集してタスクを承認すると、検証プロセスが実行される前に【コメント】ダイアログボックスが表示される。この問題は、ユーザーイグジットがタスクを処理した場合に発生する。

参照番号	説明
MDM-8768	アップグレードしてリポジトリテーブル <code>c_repos_component_instance</code> からすべての構成ファイルを削除した後で、Informatica Data Director に最初にログインしたユーザーのタスクマネージャのインボックスにタスクが表示されない場合がある。 回避策: Informatica Data Director からログアウトし、再度ログインします。
MDM-8551	[コメントの追加] ダイアログボックスを閉じた後で、ユーザーイグジット検証チェックのエラーメッセージが表示される。
MDM-7894	IDD 設定に存在しないタスクタイプ名がタスクマネージャに含まれている場合、タスクマネージャでそのタスクまたはほかのタスクを表示できない。 回避策: すべてのタスクタイプを IDD 構成ファイルに追加します。
MDM-7877	Informatica Data Director アプリケーションをデプロイした後に、MDM セキュリティアクセスマネージャのロールおよびユーザーを設定し、他の設定手順を実行すると、新しいタスクがタスクインボックスまたはタスクマネージャに表示されず、エラーが生成される。 回避策: リポジトリマネージャを使用して、オペレーショナル参照ストアを検証し、アプリケーションサーバーを再起動します。
MDM-7865	ユーザー名にアクセントなどの非 UTF 記号が含まれている場合、そのユーザーは Informatica Data Director にログインできない。 回避策: 次の JVM オプションをアプリケーションサーバーに追加します。 <code>-Dfile.encoding=UTF</code>
MDM-7735	大文字を使用してユーザー名を入力して Informatica Data Director にログインすると、ActiveVOS タスクが表示されない。 回避策: 小文字を使用してユーザー名を入力して Informatica Data Director にログインします。
MDM-6708	子レコードを表示する権限を持っていない場合、ビジネスエンティティのタスクを開くことができない。
MDM-5893	バージョン 9.5.1 からアップグレードされた MDM Hub サンプルオペレーショナルリファレンスストア (ORS) を使用する Informatica Data Director (IDD) 構成 XML をインポートすると、次の致命的エラーが生成される。 SIP-BV-11005: Invalid role(s) 'DataSteward' in task assignment configuration for task type 'ReviewNoApprove' in subject area 'Person.' また、IDD 設定 XML をインポートした後で、MDM Hub サンプル ORS のメタデータ検証が失敗します。 回避策: Hub コンソールで、MDM Hub サンプル ORS に接続し、ロールツールにアクセスします。書き込みロックを取得し、データスチュワードロールの名前を DataSteward に変更します。
MDM-4000	承認タスクのレコードを更新すると、一部のデータが昇格されない。
MDM-3800 HORA-49646	MDM Multidomain Edition をアップグレードすると、階層マネージャに対応していて、アップグレード前に存在していたレコードのリレーションを表示できず、リレーションの子タブをクリックすると、次のエラーが表示される。 Invalid column name 'ROWID_HIERARCHY'. 回避策: Hub コンソールで、階層マネージャリレーションのパッケージを再作成します。

参照番号	説明
HORA-51906	サブジェクト領域名の先頭に数字を指定できない。
HORA-43191	コンフィギュレーションマネージャでカラムの編集スタイルを [チェックボックス] に設定するためにサブジェクト領域設定を編集したが、変更をキャンセルした場合、新しいサブジェクト領域エンティティフォームを開くと、NULL ポインタ例外が発生する。

エンティティ 360 フレームワークに基づいた IDD ビュー - 既知の制限事項

エンティティ 360 フレームワークに基づいたビューは、ビジネスエンティティデータモデルと連携するように設計されています。これらのビューを使用するには、IDD アプリケーションをサブジェクト領域データモデルからビジネスエンティティデータモデルにアップグレードする必要があります。

以下の表に既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-14958	検索ボックスのドロップダウンリストで、リストがブラウザウィンドウの高さを超えている場合、リストをスクロールして画面に表示されていない項目を表示することができない。 回避策: ブラウザで、全画面モードに切り替えます。リストの残りの部分が表示されるまで解像度を上げます。
MDM-14952	履歴ビューで、[オプション] メニューのタイムスケールラベルが最初は正しく表示されない。 回避策: タイムスケールラベルのタイムスケールを操作して、正しく表示されるようにします。
MDM-14933	階層ビューで、履歴の [リレーション] タブのビジネスエンティティがビジネスエンティティビューで開かない。 回避策: 検索ボックスを使用してビジネスエンティティを検索し、そのエンティティをビジネスエンティティビューで開きます。
MDM-14932	タイムラインビューで、[リレーション] タブに表示されるリレーションを開くことができない。
MDM-14920	階層ビューの [エンティティの詳細] ダイアログボックスで、[詳細] をクリックすると、選択したビジネスエンティティが開かずにダイアログボックスが閉じる。 回避策: 検索ボックスを使用してビジネスエンティティを検索し、そのエンティティをビジネスエンティティビューで開きます。
MDM-14919	階層ビューで、アンカーエンティティの [アクション] > [新しいタブで開く] オプションで新しいタブが開かない。
MDM-14918	階層ビューで、アンカーエンティティの [アクション] > [編集] > [エンティティの編集] オプションでビジネスエンティティが開かない。 回避策: [表示] リストから、ビジネスエンティティビューを選択します。
MDM-14890	Microsoft Internet Explorer 10 で、ビジネスエンティティビューから [ログアウト] ボタンが表示されず、履歴ビューで詳細が正しく表示されない。 回避策: サポートされる別のブラウザを使用します。

参照番号	説明
MDM-14781	一致するレコードビューで、子レコードをターゲットレコードとして選択するときに、インタフェースで保留中状態のレコードを選択できるが、保留中のレコードはマージプロセスに参加できず、マージが失敗する。 回避策: アクティブ状態の子レコードをターゲットレコードとして選択します。
MDM-14460	アプリケーションサーバーのタイムゾーンがクライアントのタイムゾーンと異なる場合、履歴ビューのイベントの時刻がイベントの詳細パネルの時刻と異なる。
MDM-14385	マージ操作およびマージ解除操作の詳細を表示すると、[更新者] フィールドまたは[作成者] フィールドのユーザー名の先頭に e360 が付く場合がある。
MDM-14327	ビジネスエンティティの子レコードの検索結果が複数のページにわたり、表示されるページの範囲外のページ数を入力した場合、それ以降に検索結果のページを表示しようとするとき失敗し、エラーが発生する。
MDM-11397	mdm_sample オペレーショナル参照ストアを使用している場合、個人ビジネスエンティティの電話番号を追加または更新できない。 回避策: 個人ビジネスエンティティの電話番号を追加または更新する前に、次の手順を実行します。 1. Hub コンソールで、[クレンジング関数] ツールを起動して、書き込みロックを取得します。 2. [カスタム] > [電話番号の解析 - 該当なし] をクリックします。 3. [電話番号の解析 - 該当なし] 機能の [詳細] タブをクリックします。 4. [条件] を右クリックし、[条件の編集] をクリックします。 5. [条件の編集] ダイアログボックスで、各ケース値について、国コードを+1 から 1 に変更します。 6. 変更内容を保存し、リポジトリマネージャを使用してメタデータを検証します。
MDM-8606	一致するレコードビューで、レコードをマージすると、システムが応答しないように見える場合がある。 回避策: マージジョブが終了するまで待機します。
MDM-7597	レコードを削除した後でそのレコードを検索しても、削除したレコードの ROWID が依然として表示される。
MDM-4710	ビジネスエンティティビューで、ビジネスエンティティにデータを追加して [適用] をクリックすると、Hub サーバーはデータをクリーンアップせず正しくフォーマットしない。 回避策: 正しいフォーマットでデータをビジネスエンティティビューに表示するには、[保存] ボタンをクリックします。
MDM-5715	Internet Explorer 9 および 10 では、検索結果をタイプでグループ化すると、その後で検索結果を展開できない。 回避策: Internet Explorer 11、または Chrome、Safari、Firefox などの代替ブラウザを使用します。
MDM-2699	カレンダーで、1000 年 1 月 1 日より前の日付を設定できない。
MDM-2584	タスクマネージャで、タスクをタスク ID、タスクタイプ、またはタスクステータスでソートできない。
MDM-2574	タスクインボックスで、所有者のフィルタを [要求なし] に設定しても、引き受けが解除されたタスクのリストが返されない。

参照番号	説明
HORA-52227	ビジネスエンティティビュー（以前のエンティティ 360 表示）へのログイン中にアプリケーションサーバーを再起動すると、ページを更新した後で再ログインできなくなる。 回避策: ブラウザに有効なエンティティ 360 表示 URL を入力します。
HORA-51951	WebLogic 環境で、ビジネスエンティティビュー（以前のエンティティ 360 表示）にログインした後でブラウザキャッシュをクリアすると、エンティティ 360 表示に再ログインできなくなる。 回避策: ブラウザから Cookie をクリアします。
HORA-51879	GetOneHop コンポーネントにより、ベースオブジェクトでなく相互参照テーブルからのエンティティラベルデータが表示される。
HORA-51869	エンティティ 360 のアクセス制御が、サブジェクト領域権限でなくルート複合オブジェクトのベースオブジェクトに依存している。
HORA-51864	GetOneHop コンポーネントで関連するエンティティがソートされない。
HORA-50581	[一致] コンポーネントで NULL 値が正しく表示されない。
HORA-50578	Twitter コンポーネントのロード速度が予想していたよりも低い。

IDD の従来のビュー - 既知の制限事項

従来のビューはサブジェクト領域データモデルに基づいています。これらのビューは、Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1.x 以前からアップグレードしたユーザーに表示されます。

以下の表に既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-14872	一致ビューで、ユーザーはすでに他のレコードとマージすることが選択されているレコードをマージ候補として追加できるが、レコードをマージ候補として追加すると、エラーが発生する。
MDM-14767	従来の XREF ビューでルートノードをマージ解除した場合、マージ解除タスクが処理される時にエラーが発生し、レコードがマージ解除されない。 回避策: ビジネスエンティティのルートレコードをマージ解除しないでください。
MDM-13787	XREF ビューで、相互参照レコードのマージ解除タスクがすでに存在していてもそのレコードをマージ解除するように選択できるが、重複するマージ解除タスクが処理される時にエラーが発生する。
MDM-10625	[階層] ビューで、レコードの履歴が想定どおりに表示されない。
MDM-10613	階層ビューで、リレーションおよびリレーションレコードの終了日が IDD SMOS システムとは異なるソースシステムのものである場合、既存のリレーションレコードが削除される。
MDM-9796	階層ビューの【フィルタ】タブでエンティティタイプを無効にすると、これらのエンティティとのリレーションを作成できない。 回避策: リレーションを作成する前に、【フィルタ】タブを開き、リレーションで使用するエンティティタイプを選択します。

スマート検索の既知の制限事項

次の表に、既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-14953	スマート検索データの初期インデックス処理ジョブが次のエラーで失敗する場合があります。 SIP-52050: Failed to retrieve the ZooKeeper client instance because the connection to the ZooKeeper client instance timed out. No collection linked. 回避策: 10 分後にジョブを再実行します。同じエラーが再び発生する場合、アプリケーションサーバーを再起動してジョブを再実行します。
MDM-14951	ベースオブジェクトがインデックス処理された後で、ベースオブジェクトのシステムフィールドの検索、フィルタリング、ファセットができない。
MDM-14945	保留中のレコードを削除した後で、cmxserver.log ファイルに次のエラーが表示される。 [ERROR] com.informatica.mdm.sss.SmartSearchMDB: SIP-11041: Communication error "invalid stream header: 3C3F786D" occurs when making a request to Process Server
MDM-13647	スマート検索データの初期インデックス処理ジョブを再実行して子ビジネスエンティティの古くなったインデックスを更新した後で、MDM Hub のバッチビューアツールが更新されず、子ノードの警告アイコンが表示され続ける場合があります。警告アイコンはインデックスが古くなっていることを示しています。 回避策: MDM Hub コンソールを閉じて再起動します。警告アイコンが消えます。
MDM-11238	二重引用符 (") で囲まれた検索文字列を使用して完全一致検索を実行すると、検索で予期された結果が返されない場合があります。 回避策: 各二重引用符の前にバックスラッシュ (\) を付けて再び検索します。例: \"Robin Williams\"
MDM-10723	検索可能なフィールドとしてフィールドを設定すると、スマート検索要求が失敗することがある。 回避策: 次のいずれかのタスクを実行します。 - 次の URL を使用してコレクションを再ロードします。http://<Host Name>:<Port>/MDESolr/admin/collections?action=RELOAD&name=<Collection Name> Host Name は、ZooKeeper サーバーとして使用するプロセスサーバーのホスト名を示し、Port は、プロセスサーバーがリスンするポート番号を示します。Collection Name は、フィールドを追加したコレクションまたはビジネスエンティティの名前です。 コレクション名は、次のディレクトリから取得できます。<MDM Hub Installation Directory>\hub\cleanse\solr 例えば、4d5354312e375056.Person は Person ビジネスエンティティのコレクション名です。 - アプリケーションサーバーを停止し、ZooKeeper データディレクトリを削除して、アプリケーションサーバーを再起動します。

参照番号	説明
MDM-10389 MDM-11925 MDM-12691	スマート検索要求で次のいずれかのエラーが返される場合がある。 - [SearchService_30027]Exception occured while getting query the constructor - An internal error occurred. Contact an administrator to get more information for the client tool logs. If the administrator cannot determine the cause of the error, contact Informatica Global Customer Support. 回避策: アプリケーションサーバーを再起動して再試行します。同じエラーが発生する場合、次のタスクを実行します。 1. アプリケーションサーバーを停止します。 2. ZooKeeper データディレクトリを削除します。 3. 複数のプロセスサーバーでスマート検索を有効にしている場合、次のディレクトリを削除します: <code><MDM Hub Installation Directory>\hub\cleanse\solr</code> 4. アプリケーションサーバを再起動します。 5. solr ディレクトリを削除する場合、スマート検索データの初期インデックス処理ジョブを実行します。 6. 検索を再度実行します。
MDM-9805	REST サービスの WADL ファイルの期限が切れている。 回避策: REST サービスの詳細については、『<i>Informatica MDM Multidomain Edition ビジネスエンティティサービスガイド</i>』を参照してください。
MDM-8488	負の数値を検索するか、負の数値を使用して検索結果をフィルタリングすると、次のエラーが表示される。 [SIP-11008] SIP-11008: [SearchServiceClient_00028] You cannot use the following operators in the search string: AND, NOT, -, and OR. Add + before each search word if the search results must contain the word. Do not add + if the search word is optional or single word.
MDM-8598	アプリケーションサーバーの再起動後、スマート検索データの初期インデックス処理ジョブまたはスマート検索要求でアプリケーションサーバーログファイルに次のエラーが返される。 No live SolrServers available to handle this request 回避策: アプリケーションサーバーを再起動します。
MDM-8161	多数の結果を表示するようにスマート検索を設定すると、ブラウザによっては、一部のレコードが表示されなかったり、応答しなくなったりすることがある。
MDM-5785	スマート検索要求で 1970 年より前の日付がファセットされない。
MDM-4753	検索 UI に同じ名前の 2 つのフィルタが表示され、フィルタ対象のオブジェクトが識別されない。フィルタフィールドは一意である必要はありません。ルートオブジェクトと子オブジェクトの両方に同じ名前 (Name など) のフィールドを割り当てることができ、両方のフィールドをフィルタとして設定できます。 回避策: ルートオブジェクトとその子オブジェクトのカラム名が一意になるようにします。
MDM-4355	スマート検索要求で、検索文字列の言語と一致するフィールドしか検索されず、言語横断検索がサポートされていない。

参照番号	説明
MDM-3289 HORA-52192	複合オブジェクトに displayName というフィールドが含まれていない場合、スマート検索を実行すると、[検索] ワークスペースの 【名前】 カラムにランダムなフィールド値が表示される。 回避策: 【名前】 カラムにフィールド値を設定するには、データベースツールを使用して C_REPOS_CO_CS_CONFIG テーブルを開き、SEARCHABLE_CO 設定タイプの BLOB データの該当フィールドに複合オブジェクトの [displayName] プロパティを設定します。
MDM-3235 HORA-51752	スマート検索データの初期インデックス処理ジョブを 2 回以上実行すると、このジョブから不正なメトリックが返されることがある。
MDM-2644	プロセスサーバーでスマート検索を有効にすると、メモリ不足でコレクションの作成が失敗しても、アプリケーションサーバーログファイルには関連するエラーメッセージが何も記録されない。
MDM-1799	負の値を検索すると、スマート検索要求によって一致する正と負の値が返される。
HORA-52165	特権がない管理者以外のユーザーがスマート検索を実行すると、Informatica Data Director アプリケーションにより不明確なエラーメッセージが表示される。
HORA-52156	2 つのエンティティ間に非アクティブなリレーションを作成し、スマート検索データの初期インデックス処理ジョブを実行すると、スマート検索要求により、無効なリレーションを持つエンティティが返される。

Informatica プラットフォームの既知の制限事項

次の表に、既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
HORA-52304	Informatica Platform でステージプロセスを実行する場合、CleansePut API を使用できない。
HORA-52303	Informatica Platform でステージプロセスを実行する場合、ソースシステムで物理削除されたレコードを MDM Hub が検出できない。
HORA-52297	Informatica Platform のステージング用にソースシステムキーを保持するオプションを有効化しても、ソースシステムキーが保持されない。
HORA-52296	Informatica Platform のステージングを実行するときに、ステージングテーブルデータに対してデルタ検出および監査証跡を設定できない。
HORA-51360	Informatica Platform のステージングを実行すると、最終更新日時が将来であることを示すソースレコードがステージングテーブルの LAST_UPDATE_DATE カラムに挿入される。 回避策: 最終更新日時が将来であることを示すレコードを拒否できるよう、ステージプロセスのトランスフォーメーションを設定します。
HORA-51362	Informatica Developer (Developer tool) で論理データオブジェクトを開くと、変更を行っていないのに [保存] ボタンが使用可能になる。
HORA-51075	Developer tool で論理データオブジェクトを開くと、次の警告が表示される。 Model Contains Data Objects from Informatica Analyst. 回避策: この警告は無視してもかまいません。

参照番号	説明
HORA-50574	モデルリポジトリの同期プロセスで、書き込み先の論理データオブジェクトとのマッピングが MDM Hub により作成されない。Informatica Platform のステージングを実行するには、ソースとしての物理データオブジェクト、出力としての論理データオブジェクト、およびクレンジング操作のためのマプレットを含むマッピングを作成します。
HORA-50573	モデルリポジトリを MDM Hub と同期すると、カスタマイズデータオブジェクトとリレーショナルデータオブジェクトが作成される。カスタマイズデータオブジェクトもリレーショナルデータオブジェクトも、定義するマッピング内で直接のターゲットとして使用しないでください。
HORA-50500	モデルリポジトリを MDM Hub と同期すると、論理データオブジェクト読み取りマッピングと論理データオブジェクト書き込みマッピングが作成される。これらの論理データオブジェクトの 1 つをエディタで開いて保存すると、これらのオブジェクトがモデルリポジトリに表示されなくなります。 回避策: この問題は無視してもかまいません。

ビジネスプロセス管理の既知の制限事項

次の表に、既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-14205	サンプルのオペレーショナル参照ストアを使用する場合、Hub コンソールで Workflow Manager を開くとエラーが発生する。サンプルのオペレーショナル参照ストアでは、MDM_SAMPLE.C_REPOS_DB_RELEASE の WORKFLOW_ENGINE_NAME の値が CMX_SYSTEM.C_REPOS_WORKFLOW_ENGINE の NAME の値と一致しません。 次のいずれかの回避策を実行します。 - ビジネスエンティティベースのワークフローエンジン ActiveVOSBE が存在しない場合、設定に追加する。 - または、サンプルのオペレーショナル参照ストアの設定を、既存のビジネスエンティティワークフローエンジンの名前に更新する。CMX_SYSTEM.C_REPOS_WORKFLOW_ENGINE カラムで、値を ActiveVOSBE に変更します。
MDM-13359	ActiveVOS を使用している場合、ユーザーがマージ解除タスクを作成したロールに属し、同時にそのタスクタイプを承認するロールにも属することはできない。ユーザーが両方のロールに属している場合、ユーザーがマージ解除タスクを承認しようとするエラーが発生します。
MDM-12011	MDM Hub と ActiveVOS をインストールすると、postInstallSetup.log ファイルで次の例外が発生する。 <pre>java.util.concurrent.RejectedExecutionException</pre> この例外は無視しても問題ありません。
MDM-9079	ActiveVOS コンソールで、[MDM ID プロバイダ] ページの [MDM 接続設定パスワード] フィールドに、MDM Hub ユーザー名 admin のパスワードを入力する必要がある。他のユーザーが管理権限を持っていたとしても、そのユーザーのパスワードを使用することはできない。
MDM-9041	複数のワークフロートリガがアクションに適用されている場合、後続のトリガがビジネスエンティティに固有であっても、最初に適用できるトリガが適用される。 回避策: タスク構成ファイルで、ビジネスエンティティ固有のトリガをファイルの先頭に配置します。一般性の高いトリガをファイルの末尾に配置します。

参照番号	説明
MDM-8763	MDM Hub と埋め込み ActiveVOS を同時に Linux 環境にインストールすると、postInstallSetup.log に次のエラーが表示される。 [exec] Unable to locate tools.jar. Expected to find it in /data/tmp/install.dir.12594/Linux/resource/lib/tools.jar 回避策: このエラーは無視します。
MDM-8622	バージョン 9.7.1 から ActiveVOS タスクをインポートする場合、バッチファイルを実行してプレゼンテーションパラメータをタスクに追加すると、エラーが発生する。 回避策: このエラーは無視します。
MDM-8086	MDM Hub によって設定されたタスクの優先度を使用して ActiveVOS エスカレーションをトリガできない。
MDM-6473	サイレントインストーラのプロパティ AVOS.ORACLE.CONNECTION.TYPE が SID に設定されると、Hub サーバーのサイレントインストールプロセスで不正な ActiveVOS データベース URL が設定される。 回避策: Hub サーバーのサイレントインストールを実行する前に、サイレントインストーラのプロパティ AVOS.ORACLE.CONNECTION.TYPE を Service Name に設定します。
MDM-5290	BPM アダプタを変更すると、マージタスクの数が正しくカウントされず、数がマージタスクのしきい値を超える場合がある。 回避策: _MTCH テーブルで ROWID_TASK カラムの値を NULL に設定します。
HORA-51895	特定のオペレーショナルリファレンスストアで作成した ActiveVOS タスクが、管理者ユーザーのほかのオペレーショナルリファレンスストアに表示される。

Informatica Dynamic Data Masking の既知の制限事項

次の表に、既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
HORA-51568	Microsoft SQL Server 環境で、Dynamic Data Masking でブロックされているベースオブジェクトにレコードを追加しようとすると、MDM Hub により次のエラーが生成される。 An unknown error occurred. 回避策: Dynamic Data Masking サービスを再起動し、オペレーショナル参照ストアを登録解除します。続いて、JBoss アプリケーションサーバーを再起動します。Dynamic Data Masking 管理コンソールでは、現在のポートが削除され、別のリスニングポートが追加されます。最後に、MDM Hub でオペレーショナル参照ストアを登録し、Dynamic Data Masking を新しいポートに設定します。

プロビジョニングツールの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-14928	プロビジョニングツールがホームページを何度も再ロードしようとする場合がある。 回避策: ブラウザを閉じてからもう一度開きます。必要に応じて、アプリケーションサーバーを再起動します。
MDM-14749	Hub コンソールでベースオブジェクトを削除すると、プロビジョニングツールで依存関係がビジネスエンティティ設定から削除されない。 回避策: プロビジョニングツールで、ベースオブジェクトの依存関係を削除します。
MDM-14255	ビジネスエンティティトランスフォーメーションに対する XML を設定すると、子ノード要素のクレンジングトランスフォーメーションでのマッピングに親ノードフィールドを使用できない。 回避策: マッピングする親要素へのパスを手動で入力します。サービスデータオブジェクト (SDO) の XPath 式を使用します。ここで、/はルート XML 要素を表しています。例えば、address 子ノードのトランスフォーメーションで、dunsNumber 親要素にアクセスするには、パス/OrderCompanyProfileResult[1]/ServiceResult[1]/OrderProductResponseDetail[1]/InquiryDetail[1]/DUNSNumber[1]を使用します。
MDM-14528	別のトランスフォーメーションと同じ名前でトランスフォーメーションを作成した場合、検証エラーメッセージが表示されない。エラーが表示されるのは、変更内容をパブリッシュしようとした場合のみです。
MDM-14521	Chrome Web ブラウザでプロビジョニングツールを使用すると、Chrome が応答しなくなる場合がある。
MDM-14449	2 つ以上のビジネスエンティティで参照される参照エンティティでフィールドを検索可能にすると、フィールドがすべてのビジネスエンティティで検索可能になる。 さらに、どのビジネスエンティティでも参照されない参照エンティティでフィールドを検索可能にすると、フィールドが検索できなくなります。 回避策: 1 つのビジネスエンティティでのみ参照される参照エンティティでフィールドを検索可能にします。
MDM-13754	書き込みロックが Hub コンソールで取得されると、プロビジョニングツールが想定どおりに機能しない。
MDM-8844	プロビジョニングツールを使用して設定の変更をパブリッシュする場合、IDD コンフィギュレーションマネージャでビジネスエンティティスキーマを生成すると、これらの変更を上書きできる。
MDM-8750	階層管理用のエンティティベースオブジェクトとして設定されたベースオブジェクトを使用してビジネスエンティティモデルを設定すると、HIERARCHY_CODE カラムと REL_TYPE_CODE カラムがビジネスエンティティ設定に自動的に追加されない。 回避策: HIERARCHY_CODE カラムと REL_TYPE_CODE カラムをビジネスエンティティ設定に手動で追加します。
MDM-8668	モデリングページから、システムカラムにアクセスして編集できる。 回避策: システムカラムを編集しないようにします。
MDM-7219	最後のスラッシュを省略すると、プロビジョニングツールの起動に失敗する。 回避策: http://host:port/provisioning/ のように、URL の最後にスラッシュを追加します。

ビジネスエンティティの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-8764	IDD サブジェクト領域設定からビジネスエンティティスキーマを生成する場合、必須ルックアップフィールドがビジネスエンティティビュー設定またはトランスフォーメーション設定に含まれない。 回避策: プロビジョニングツールで、欠落している設定コードを追加します。 1. 【詳細設定】 > 【ビジネスエンティティビュー (XML)】 を選択します。 2. 次のコードをルックアップ設定に追加します。 <code><ns2:field name="<missing field name>" /></code> 3. 【詳細設定】 > 【トランスフォーメーションの設定 (XML)】 を選択します。 4. 次のコードを co2view 設定に追加します。 <code><input name="<missing field name>" field="<missing field name>" /> <output name="<missing field name>" field="<missing field name>" /></code> 5. 次のコードを view2co 設定に追加します。 <code><input name="<missing field name>" field="<missing field name>" /> <output name="<missing field name>" field="<missing field name>" /></code> 6. 【詳細設定】 > 【ビジネスエンティティ (XML)】 を選択します。 7. 次のコードをルックアップ設定に追加します。 <code><ns2:field name="<missing field name>" label="<missing field name>" column="<missingcolumn name>" required="true" /></code> 8. 【更新】 をクリックします。 9. 【検証してパブリッシュ】 をクリックします。

ビジネスエンティティサービスの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

注: 以前のリリースでは、ビジネスエンティティサービスは複合サービスと呼ばれていました。

参照番号	説明
MDM-14375	GetRelated SOAP API で複数の recordState を指定すると、エラーが発生する。
MDM-14101	POST 要求のオペレーショナル参照ストア (ORS) 名では大文字と小文字が区別されるが、ORS 名の文字種が MDM Hub の名前と一致しない場合、エラーが発生する。
MDM-13715	レコードを WriteCO API とマージすると、エラーが発生する。
HORA-51932	複合オブジェクトに関連するコンポーネントをリポジトリマネージャで部分的に昇格させると、検証エラーが発生する場合があります。 回避策: 全体の複合オブジェクト設定を昇格させます。
HORA-51931	検索可能な複合オブジェクト設定をリポジトリマネージャで昇格させると、検証エラーが発生する。 回避策: 検索可能な複合オブジェクト設定が関連付けられている全体の複合オブジェクト設定を昇格させます。
MDM-10553 HORA-51886	削除された孫レコードに対して複合サービス読み取りを実行しても、データが返されない。
HORA-51824	リポジトリマネージャで REST サービスを昇格させると、検証エラーが発生する。 回避策: 複合サービス設定を昇格させます。

参照番号	説明
HORA-51494	MDM Hub で、有効期間が親レコードと同じでない子レコードの作成が防止されない。 回避策: レコードを作成する際に、複合オブジェクト内でタイムラインの一貫性を維持します。
HORA-51488	保留中のレコードを読み取っても、エラーが発生し、そのレコードが複合サービスによって返されない。 回避策: ?recordStates=ACTIVE,PENDING を REST URL に追加します。
HORA-51285	MDM Hub で、アクティブな子レコードを持つレコードの削除が防止されない。
HORA-49806	複合オブジェクト設定の昇格時に、リポジトリマネージャにより競合が適切に処理されない。複合オブジェクト内の複数のオブジェクトが同じ名前を持っているが、それらの hubObject 値が異なるベースオブジェクトを参照している場合、リポジトリマネージャにより複合オブジェクト設定は正常に昇格しますが、検証エラーが生成されます。 回避策: 同じベースオブジェクトを参照しないオブジェクトに一意的な名前を使用します。

Informatica Data Controls の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-8950	Microsoft Internet Explorer 11 で、[インポート] をクリックすると [プロアクティブな一致] ウィンドウが応答を停止する。 回避策: Java Server Page ファイルで、ホストページの互換モードを有効にします。

Resource Kit の既知の制限事項

次の表に、既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-14102	Web サンプルの LookupWebServiceExample をデプロイすると、MDM Hub でアプリケーションサーバーログファイルにエラーが生成される。 回避策: このエラーは無視します。

サンプルのオペレーショナル参照ストアの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-14434	エンティティビューでルックアップカラムの値の完全なリストが表示されない。 回避策: Hub コンソールでデータベースツールを使用し、ルックアップベースオブジェクトの GETLIST 上限を 300 に設定します。

サービス統合フレームワークの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-8880	SIF 呼び出しにより、LAST_UPDATE_DATE カラムと UPDATED_BY カラムが不正なデータで更新される。
MDM-593	Windows オペレーティングシステムの Microsoft SQL Server 環境で、SearchMatch が複数のスレッドを使用して実行されていると、次のエラーが発生する。 SIP-10226=Error in building query to run MATCH verb. 回避策： 次のエントリをレジストリサブキー HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters に追加します。 値の名前: MaxUserPort 値のタイプ: DWORD 値のデータ: 65534

第 4 章

Informatica グローバルカスタマサポート

Informatica Network の電話またはオンラインサポートからグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<http://www.informatica.com/us/services-and-training/support-services/global-support-centers>) を参照してください。

Informatica Network メンバである場合は、オンラインサポート (<http://network.informatica.com>) を使用できます。